湯ヶ島文学の郷構想

平成 31 年 3 月

伊豆市

目　次

１．背景と目的 3
（１）　構想の位置づけ 3
（２）　文学の郷構想対象エリア 4
２．湯ヶ島地区で取り巻く現状と課題 5
（１）　湯ヶ島地区の現状 5
（２）　湯ヶ島地区の課題 8
３．基本的な考え方 9
（１）　理念 9
（２）　基本方針 9
（３）　推進体制 10
４．基本理念の実現に向けた取り組み 11
Ⅰ　湯ヶ島を愛する地元ファンづくり 11
Ⅱ　文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実 13
Ⅲ　地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり 15
５．構想の実現に向けた取り組み（重点プロジェクト） 18
（１）　ファンクラブ活動による地域の若者参画・人材育成 19
（２）　営林署跡地の活用とファンクラブによる市民主体の公園づくり 20
（３）　上の家の利活用 25
（４）　文学の郷を巡る周遊環境の整備 28
（５）　文学の郷情報発信プロジェクト 30
６．文学の郷構想の進捗管理 31
（１）　構想策定後の流れ 31
（２）　評価指標 31
＜参考資料＞ 32
アンケート調査抜粋 32

湯ヶ島文学の郷構想実現に向けて

今年１月に待望の天城北道路が完成し、伊豆市を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。

文学といえば伊豆、とりわけ「湯ヶ島」の地は井上靖をはじめ多くの文豪がこの地を愛し、「言葉」という表現手段で作品をしたため、魅力ある作品が生まれました。

老若男女がそれぞれの感受性の中で、その世界を読み進めるうちに文学作品の情景や主人公の気持ちとなります。数々の文学作品の舞台となった伊豆は、豊かな自然、温泉、旅館文化と合わせ日本を代表する「文学の聖地」となる可能性を秘めています。

こうした信念のもと、私は平成 24 年度に静岡県が開催している「伊豆文学フェスティバル」を伊豆市に誘致する機会に恵まれました。以来文学まつりとのコラボ等による情報発信により、市民にも伊豆の文学資源として認知度が高まりました。

また、昨年度は、日本ペンクラブとの共催により「川端康成の伊豆」を通じ、作品を育んだ伊豆の魅力を改めて認識することができました。

さて、本構想は平成 29 年 6 月「湯ヶ島地区グランドデザイン提案書」、29 年 10 月に湯ヶ島地区地域づくり協議会からの「湯ヶ島地区地域振興に関する要望書」を受けてのものであります。「湯ヶ島の誇りである美しい風景と文学、歴史」を活かし「心地よく交流できる拠点づくり」を地域住民と事業者と行政が三位一体となり進めようとの共通認識のもと、伊豆市が取得した営林署跡地活用を中心としたまちづくりを進める指針ともいえるものです。

本構想の策定に際しましては、斎藤誠会長をはじめ、地域の方々が主体となり「湯ヶ島を元気に」、「この地域を元気にしよう」との思いが感じられ大変心強く思います。

本構想の策定を機に、文学、自然、温泉を軸とする湯ヶ島地区のまちづくりが力強く進められますことを、心からご期待申し上げます。

平成 31 年３月

伊豆市長　菊地　豊

文学の郷づくり構想の実現に向けて

私は、「湯ヶ島の郷、大好き人間」です。多くの文人が湯ヶ島を愛し、数々の作品がこの湯ヶ島で生まれました。井上靖先生は少年時代を湯ヶ島で過ごし、代表作『しろばんば』は当時の湯ヶ島を舞台にして描かれています。

60 年程前の湯ヶ島地区は、多くの観光客で賑わい、大変潤っていました。当時から自然環境も良く、子どもたちは夏休み期間中に毎日狩野川で泳ぎ、アユ、アマゴを獲り、寒くなると子ども用の野天風呂で暖をとるといった光景もよく見られ、温泉も大変豊富な湯ヶ島でした。

しかし、近年は主要産業のひとつである観光業の不振により地域に活気が無くなり、少子高齢化も進み湯ヶ島地区の衰退に拍車をかけています。

そこで「湯ヶ島地区地域づくり協議会」の会員である湯ヶ島地区の既存団体メンバー(約 30 名)により、湯ヶ島地区の賑わいを回復するための仕組みづくりが必要であると「湯ヶ島地区グランドデザイン策定会議」を平成 28 年 8 月に発足しました。11 回の会議を経て地元としての構想を提案書として策定し、最優先取組事項として「上の家整備」と「営林署跡地の有効利用」を挙げ、行政に平成 29 年 10 月に提出しました。

この提案書をもとに、30 年度に入り行政と共に最優先事項の 2 件の検討を重ねた結果、「上の家の整備」は縁側カフェを行い、地域住民の居場所として自由に立ち寄ってもらいつつ、外部からの見学者には、おもてなしとしてお茶などのサービスを行います。「営林署跡地の有効利用」については、地域住民の健康増進的な公園として散策路、芝生広場、イベント広場、水遊び場などを設け、多くの地域住民に利用してもらうことが、各部会を中心に検討され、市として策定する文学の郷構想に盛り込むこととなりました。

ここで重要なことは、ファンクラブが出来たことです。ファンクラブのメンバーが、芝刈りやイベントを企画し、公園を守って頂けることとなりました。どうか地域住民が一丸となって、活気を取り戻すよう頑張りましょう。行政へのお願いは、早期に構想が実現できるよう宜しくお願いします。

平成 31 年 3 月

グランドデザイン推進会議　斎藤　誠

1. 背景と目的

湯ヶ島地区は、古くから日本を代表する文人たちに愛され、数々の作品がこの地で生まれており、文学的な資源に恵まれた地域となっている。

第２次伊豆市総合計画においては施策の一つとして、「歴史・文化資源の保存、継承、活用」を掲げており、湯ヶ島地区においては「歴史・文化の薫る“文学の郷”」に向け、これまでに「伊豆文学まつり」や「伊豆文学フェスティバル」等の関連事業を実施している。

また、地元住民有志や関係者を中心に平成 29 年度に策定された「湯ヶ島地区グランドデザイン提案書」の中においても、「地域の魅力を高めることが、地域の賑わいを取り戻すことになる」と捉えられており、「湯ヶ島の誇り（美しい風景と文学・歴史）を育み、広く発信する」を主要構想の一つとして、「文学・歴史の雰囲気を安心してゆったりと堪能できるまちづくりを行い、住民の誇りや観光客の満足度のアップを目指す」こととしている。

地域においては、平成 31 年４月には、湯ヶ島地区の象徴的な拠点施設である旧湯ヶ島小学校が改修され、市民活動センターとして、天城図書館・井上靖資料室・湯ヶ島地区地域づくり協議会拠点・ジオ展示資料室等の供用が開始される。旧湯ヶ島幼稚園は、コミュニティセンターとして天城湯ケ島支所等の行政機能が集約され、市民活動センターと共に天城湯ケ島コミュニティ複合施設として面的な活用が期待されている。

長年の懸案事項であった湯道周辺の廃屋の撤去も行われ、地域の景観保全の取り組みも進められている中、地元住民・関係団体（事業者）・行政の三者が一体となり、湯ヶ島地区における文化的な地域資源の具体的な活用プランや “文学の郷” の持続可能な推進体制を整備することを目的に本構想を策定するものである。

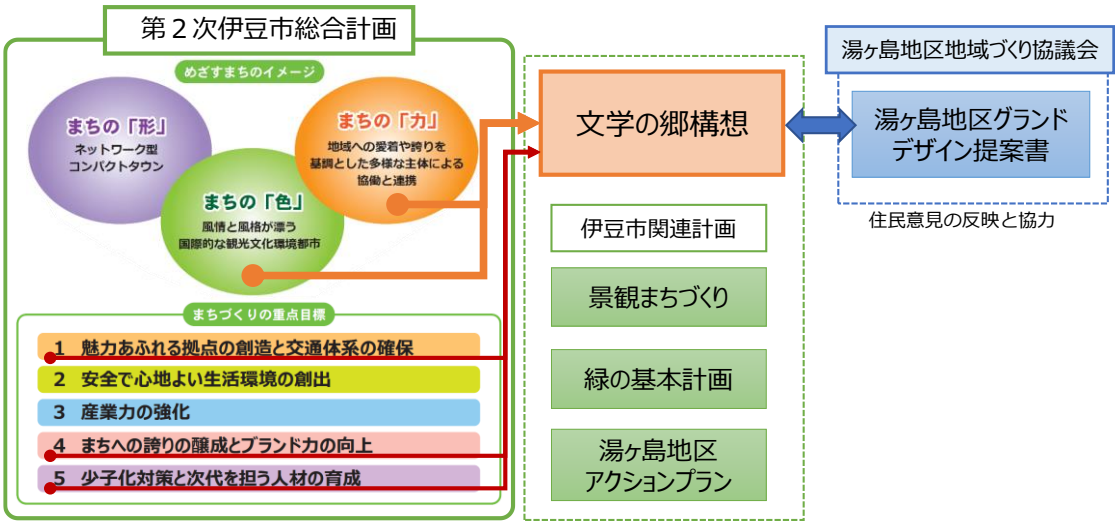
（１） 構想の位置づけ

第２次伊豆市総合計画において、『自然・歴史・文化が薫る　誇りと活力に満ちた「伊豆半島の新基軸（クロスロード）」・伊豆市』が目指すまちのテーマとして、掲げられている。その自然・歴史・文化を彩る資源の一つに湯ヶ島地区の文学資源があり、その資源を活かす指針として文学の郷構想を策定する。

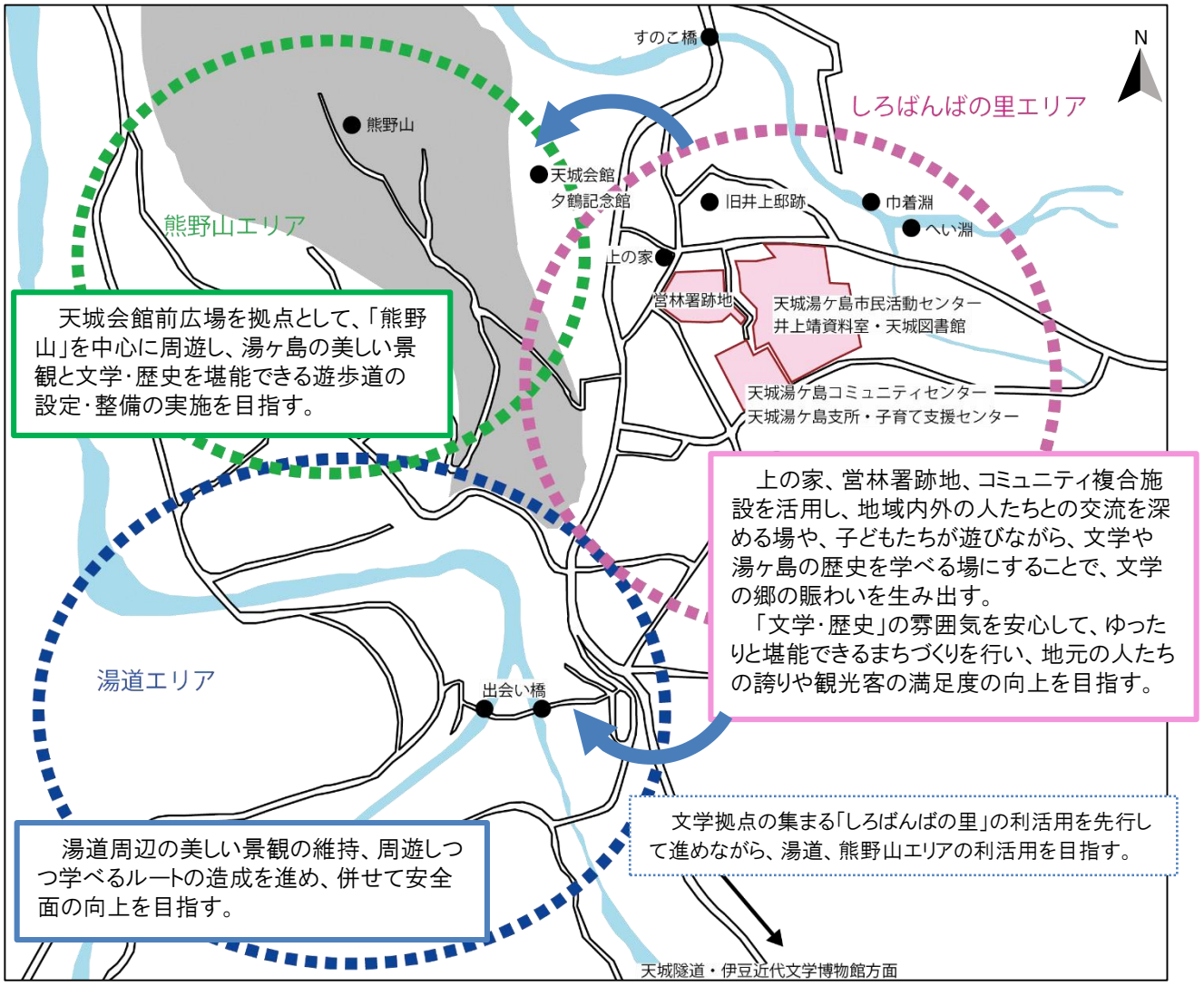
文学の郷構想では、このテーマを土台に『まちの「色」』として先人の培ってきた文化や歴史・自然を積極的に活かしていくことはもちろんのこと、湯ヶ島を愛する地元住民と地域の誇りを次世代に継承していく活動を協働により実現していく『まちの「力」』の結集についても考えながら、魅力を活かした活気のある湯ヶ島地区を目指すこととする。

また、関連する計画の中で、湯ヶ島地区における景観まちづくり重点地区の計画策定や、まちづくり活動の指針となる湯ヶ島地区アクションプランにおいても、「文学の郷」が中心的なテーマとして位置づけられている。本構想はこれらの計画も踏まえながら「文学の郷」を次世代に受け継いでいくために地域活動と拠点の活用を一体的に推進するビジョンを示すものである。

本構想と他計画との位置づけ



（２） 文学の郷構想対象エリア



2. 湯ヶ島地区で取り巻く現状と課題

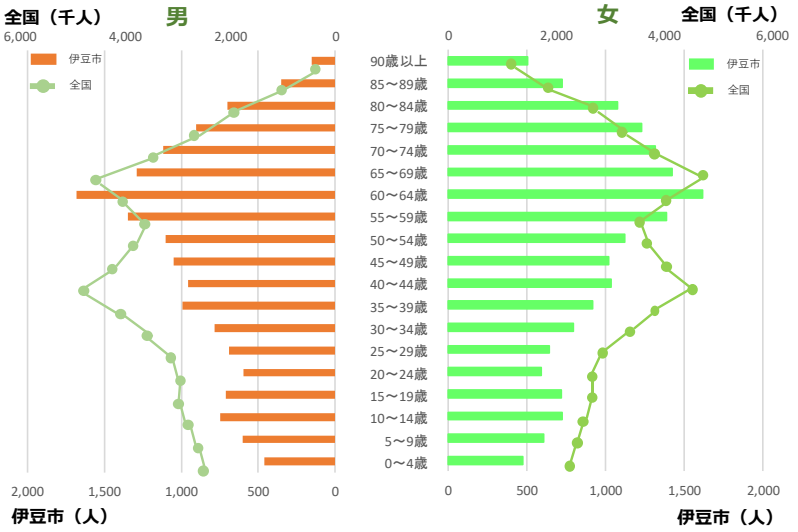
（1）湯ヶ島地区の現状

人口動向、産業・施設等の状況など

① 人口構成

国勢調査によると、平成 27 年度値において伊豆市民の約 3.2 人に 1 人が高齢者（65 歳以上）である。高齢化率は全国平均より高く、湯ヶ島地区においても市全体と同様の傾向であると考えられる。

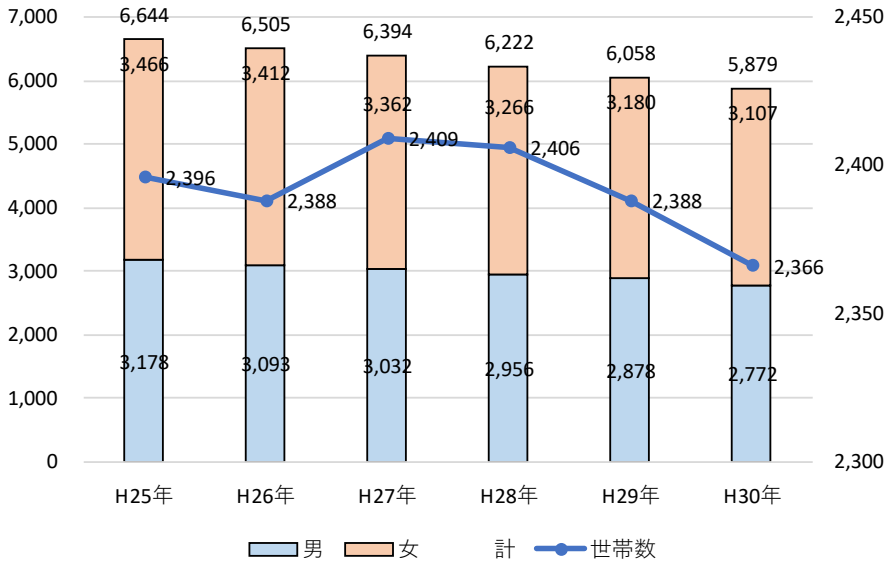
伊豆市と全国の人口ピラミッド比較（平成 27 年度）



国勢調査（平成 27 年度）より作成

天城湯ケ島地区においては、平成 25 年時点での人口が 6,644 人であったのに対し、平成 30 年では 5,879 人まで減少し、５年間で 765 人、率にして 12%の減少率となっている。

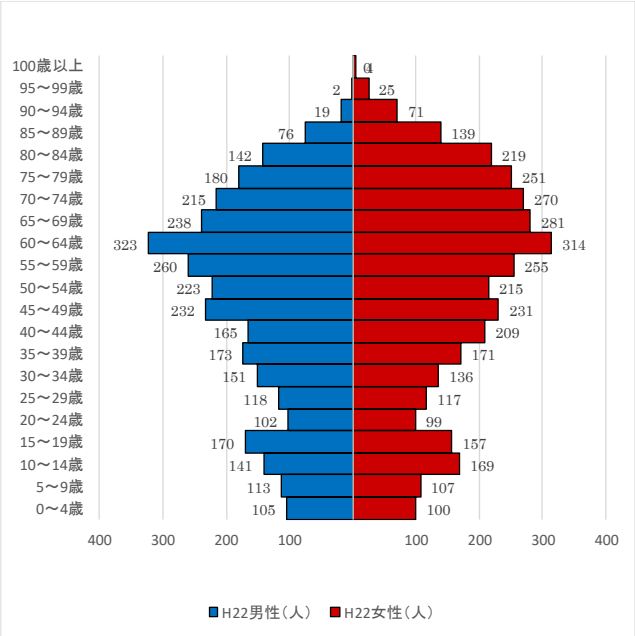
天城湯ケ島地区の人口推移



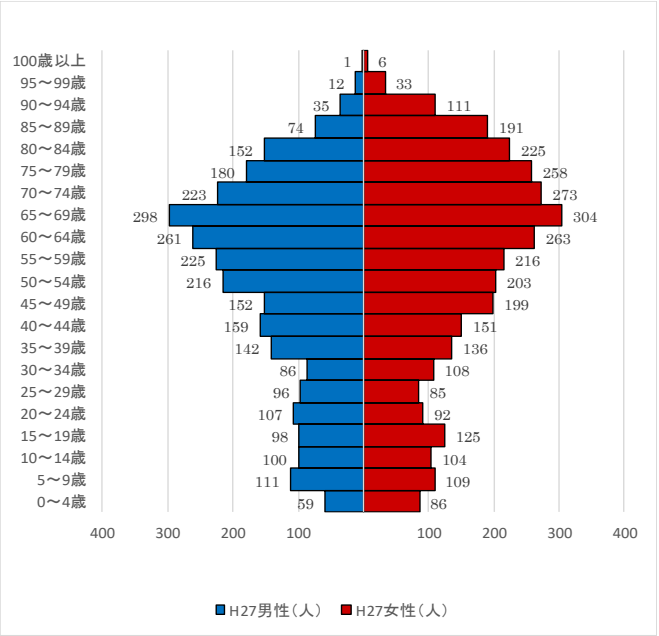
住民基本台帳より作成（各年４月１日時点）

また、人口ピラミッドで見ると、10 歳から 19 歳のそれぞれの区分において平成 22 年から平成 27 年にかけての人口減少が、他の年齢区分に比べ進んでおり、逆三角形型のピラミッド構造が一段と進んでいる。

平成 22 年度人口ピラミッド



平成 27 年度人口ピラミッド



国勢調査より

② 就業の状況

平成 27 年度時点における就業者の構成については、非就業者を除くと生産工程従事者等の技能者に次いで、サービス業従事者が多くなっている。

伊豆市の 15 歳以上の分類別就業者数

個人サービス従事者は全体の10%
販売従事者・商店主・サービスその他の事業主を合計すると17%

生産工程従事者・輸送機械運転従事者・建設採掘従事者等 ←

サービス職業従事者 ←

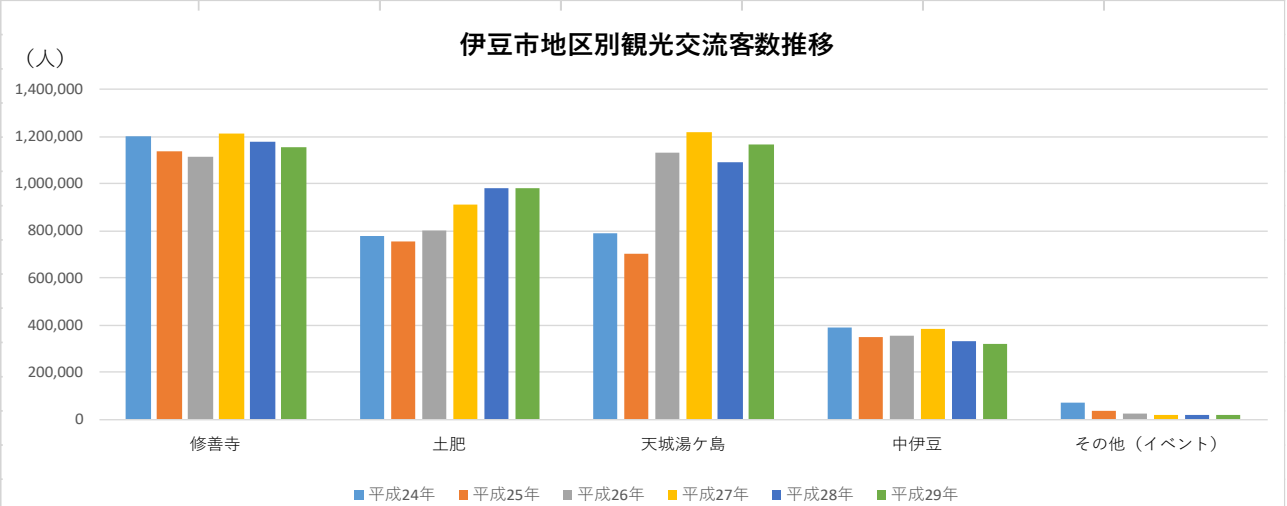
【非就業者】
学生・家事従事者・非就業者の生産額に関係しない人口が44%

分類	人数	割合	順位
農林漁業者	1,020	4%	10
農林漁業雇用者	160	1%	17
会社団体役員	290	1%	13
商店主	180	1%	15
工場主	170	1%	16
サービス・その他の事業主	280	1%	14
専門職業者	60	0%	21
技術者	1,100	4%	8
教員・宗教家	720	3%	11
文筆家・芸術家・芸能家	130	0%	19
管理職	90	0%	20
事務職	2,070	7%	5
販売人	1,290	5%	7
技能者	3,030	11%	3
労務作業者	1,360	5%	6
個人サービス人	2,870	10%	4
保安職	150	1%	18
内職者	10	0%	22
学生生徒	1,070	4%	9
家事従事者	3,720	13%	2
その他の15歳以上非就業者	7,430	27%	1
分類不能	600	2%	12
総数（社会経済分類）	27,810	100%	-

平成 27 年度国勢調査より

③ 主要産業(観光)の状況

伊豆市においては、観光産業が主要産業の一つとなっており、湯ヶ島地区のある天城湯ヶ島エリアは、指標となる観光交流客数が、修善寺地区に次いで多い。直近の平成 29 年度においては、修善寺地区をも上回っており、観光客が訪れたいエリアとして、認知度が上がってきているエリアである。



	修善寺	土肥	天城湯ケ島	中伊豆	その他（イベント）	合計
平成24年	1,202,821	779,192	791,666	388,725	72,040	3,234,444
平成25年	1,139,475	753,168	703,332	346,155	37,984	2,980,114
平成26年	1,116,771	800,446	1,131,773	352,583	21,899	3,423,472
平成27年	1,214,526	909,495	1,218,958	385,331	20,587	3,748,897
平成28年	1,176,221	984,443	1,093,946	329,418	20,200	3,604,228
平成29年	1,153,538	983,672	1,164,657	319,008	20,200	3,641,075
割合	32%	27%	32%	9%	1%	100%
増減率(H24~H29)	-4%	26%	47%	-18%	-72%	13%

伊豆市観光商工課より

（２） 湯ヶ島地区の課題

市では、本構想の検討に際し、地域の方々や文学館等との意見交換に加え、世帯に実施したアンケート調査により課題等を明らかにしてきた。その中で、多く出された意見として、以下の課題が挙げられた。

① 「空き店舗が増え、賑わいが失われている」と感じる人が多い

湯ヶ島地区の下田街道沿いにおいては、空き店舗が多くなり、旧湯ヶ島小学校も統合されたため、昔に比べ子どもが少なく、賑わいが失われていると感じる人が多い。

② 地域の賑わいづくりを推進するため、今後の方針をハード・ソフトの両面から考えていく必要がある

天城湯ケ島支所の移転が完了し、旧湯ヶ島小学校も市民活動センターとして再整備が行われているが、湯ヶ島地区の中核ともいえる場所に位置する営林署跡地は、現在全く利用されていない状況にある。地域においては湯ヶ島地区に点在するこれらの拠点を活用し、賑わいを生み出そうとしている取り組みも住民主体で行われていることから、文学の郷構想に基づき、活動目標を共有しつつ、明確化を図りながら賑わいづくりを進める必要がある。

③ 地域の賑わいづくりの核となる協働体制づくりを進める必要がある

地域の賑わいづくりには、地元住民が楽しく無理なく取り組める体制づくりが必要であり、地域と行政が連携した協働体制づくりが求められている。人口減少、高齢化が進む地域社会の中で、子どもたちにも積極的なアプローチを行い、世代をつなぐ取り組みを進めることで、より持続可能な体制づくりを進めていく必要がある。

④ 湯ヶ島地区をうまく案内できていない

天城北道路が開通し、湯ヶ島地区へのアクセス環境が向上している中、井上靖ファンが訪れる井上靖文学館のヒアリングからは、「湯ヶ島地区に気づかず通過してしまった」というファンの声が多いことから、サイン整備や周辺の道の駅等における広報に課題があることがわかってきた。

この課題を改善するため、市民向け、来訪者向けとターゲットを分けた形で湯ヶ島文学のブランド化を進めるとともに、周知、啓発する看板や、各文学拠点へ誘導する看板を整備する必要がある。

また、湯ヶ島地区にしかない文学資料・資産といったものがあるが、地域内外へのＰＲが不十分であるため、日本を代表する文学の郷に値する地域であることを地元住民や来訪者に知ってもらうことが必要である。

⑤ 景観・環境を守り、住んでいる人が誇れるまちにすること

湯ヶ島地区の文学の郷の景観を構成する貴重な建築物が年々失われつつあり、魅力ある景観を守るためにも文学・歴史資産、街並み、自然等を地域で活かし、保全していく必要がある。

また、地区内を周遊し、文学の郷の雰囲気を味わう環境についても、維持していくためには人の手を入れ、保全していく必要がある。

3. 基本的な考え方

（1） 理念

文学の郷の誇りを育み、文人の愛した自然・街並み・人の交流を受け継ぐ

～湯ヶ島ファンと紡ぐ清らかな地域～

湯ヶ島地区住民の思う「私たちが住みたい湯ヶ島」は、湯ヶ島地区を抱く天城の自然や風景がいつまでも変わらずにありつづけて欲しいということであり、それはかつて湯ヶ島を訪れた多くの文豪の思いにも通ずるものである。

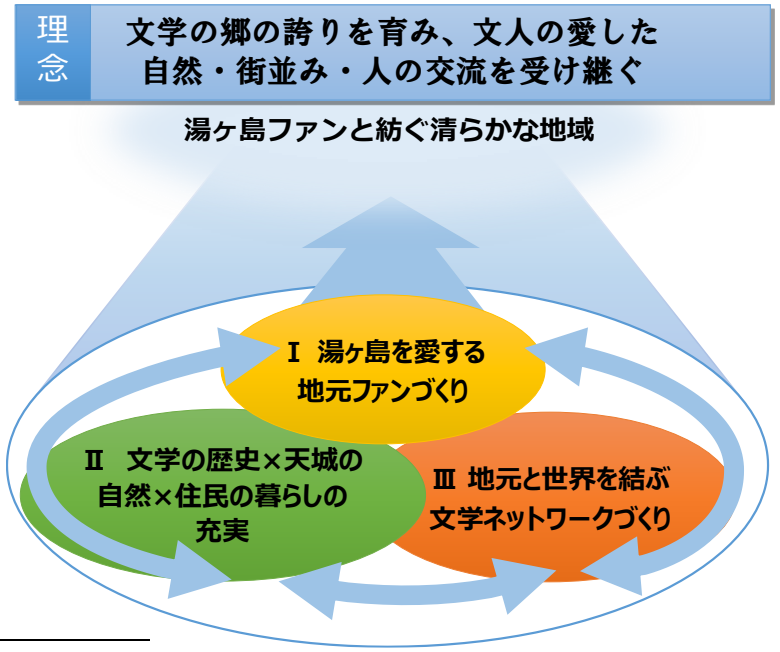
湯ヶ島を舞台として描いた作品を追体験できるのは、やはりこの湯ヶ島である。この地域には、文豪が愛し、地元住民の生活に密着した温泉場がある。これを活かしつつ、語り継がれてきた民話と文学の舞台である渓谷や山村の風景を美しく保全し、住民が誇れ、人々がいつまでも訪れる場所にしていくことを本構想の策定により目指していきたい。

次世代に文学の郷としての誇り、文化、街並み、環境を受け継いでいくためにも、これらを活用しつつ、維持していく取り組みが必要である。

これらの取り組みを推進するため、本構想においては、理念として、「文学の郷の誇りを育み、文人の愛した自然・街並み・人の交流を受け継ぐ」ことを掲げるとともに、地元住民の日々の生活に根付き、誰もが関わりやすい活動を通して、「清らかな地域を育む賑わいづくり」を湯ヶ島ファン一丸となって進めるものである。

（2） 基本方針

Ⅰ 湯ヶ島を愛する地元ファン[1]づくり
Ⅱ 文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実
Ⅲ 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり



[1] 「ファン」とは、湯ヶ島を盛り上げていこうという気概を持つコアな住民はもちろん、湯ヶ島への地元愛を育む住民、地域を良くしていきたいと思う住民といった幅広い関心を持つ方々に加え、湯ヶ島文学のファン、地域の交流拠点・文学拠点の利用者・活用者も「ファン」ととらえる。これらの「ファン」とともに基本方針のもと、理念の実現を目指す。

（3） 推進体制

本構想では、策定段階において、地元住民と行政の協働により検討を行ってきた。実行段階においても、引き続き、協働により事業を推進する。

それぞれの関係者の担う役割を互いに活用し、文学の郷の賑わいを創出する。

1） 地元住民、地域団体、ファンクラブ[2]

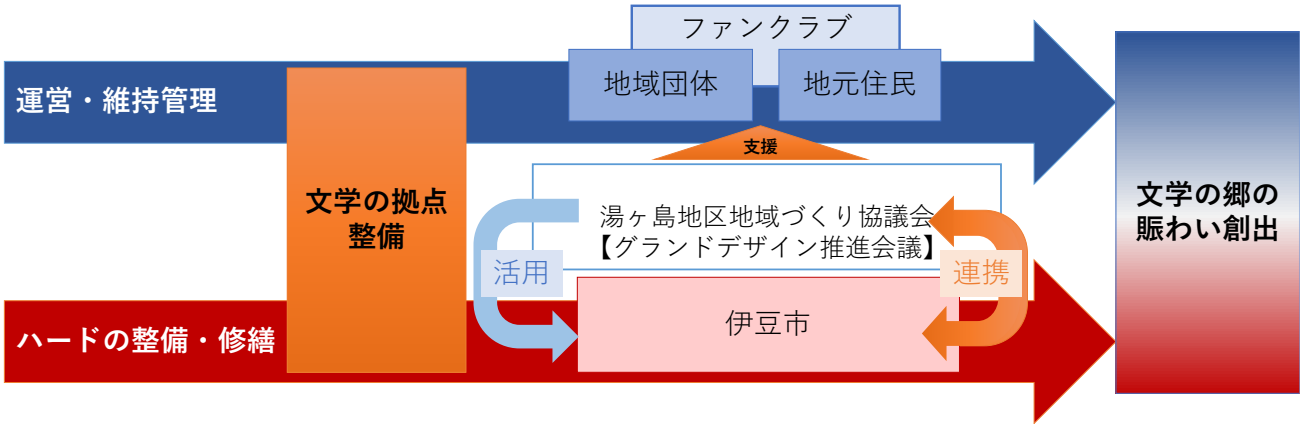
実働を担うプレーヤーとして、事業の運営・維持管理等を行う。

2） 湯ヶ島地区地域づくり協議会【グランドデザイン推進会議】

協議会事業として地元住民の運営・維持管理を支援するコーディネーターの役割を担う。

3） 行政

地元住民のみで解決できない部分の支援を行う。（事業運営補助、インフラ整備、市の広報媒体による情報発信等）



[2] 「ファンクラブ」とは、湯ヶ島を盛り上げていこうという気概を持つコアな住民、湯ヶ島における地元愛を育む地元住民、湯ヶ島文学のファン、地域の交流拠点・文学拠点の利用者や活用者たちが「湯ヶ島を盛り上げていこう」というかけ声のもと集まった組織のこと。

4. 基本理念の実現に向けた取り組み

理念

文学の郷の誇りを育み、文人の愛した自然・街並み・人の交流を受け継ぐ

基本方針

Ⅰ 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり

1）定期的な情報交換の場
2）あすなろ忌などの文学関連イベントへの市民の参画
3）ファンクラブ等への地域の若者の参画や文学関連人材の育成
4）文学の郷を巡るモデルコースの環境整備とガイド養成
5）次世代を担う子どもたちへの文学の郷の誇りの伝承
6）湯ヶ島地区地域づくり協議会事業との連携

Ⅱ 文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実

1）みんなの公園としての営林署跡地整備
2）上の家の利活用
3）市民活動センター（旧湯ヶ島小学校）・井上靖資料室の活用
4）文学拠点の面的活用による地域の賑わい創出
5）湯ヶ島の散策環境の保全
6）旧井上邸再移築

Ⅲ 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり

1）地元住民が地域のイベントを知り、関わることができる仕組みづくり
2）SNS等を活用した情報発信体制の構築
3）情報発信体制の強化と文学関連事業の整理、拡充
4）文学ネットワークの構築
5）「湯ヶ島文学」のブランド化の推進

Ⅰ　湯ヶ島を愛する地元ファンづくり

湯ヶ島地区に点在する文学・歴史資産を活用しながら、文学と賑わいが融合する施策を検討し、地元主体の「ファン」[3]が活動の中心を担う体制を構築する。この体制を地域づくり協議会や行政が支援することにより、文学を軸に賑わいづくりを推進する体制を整える。

1）　定期的な情報交換の場

- ファンミーティングの開催

湯ヶ島の文学関連行事を行う各団体や、若い世代を含めた地元住民、文学館などが、地域の情報や動向を共有しながら、各々の活動やイベント開催に活かすことを目的にファンミーティングを開催する。

[3] 「ファン」とは、湯ヶ島を盛り上げていこうという気概を持つコアな住民をはじめとして、湯ヶ島への地元愛を育む住民、地域を良くしていきたいと思う住民といった幅広い関心を持つ方々に加え、湯ヶ島文学のファン、地域の交流拠点、文学拠点の利用者・活用者も「ファン」ととらえる。

2） あすなろ忌などの文学関連イベントへの市民の参画

- 市民への広報

文学関連行事を積極的に広報し、市民への周知・参加を促す。

- 市民参画の工夫

市民が参加しやすいイベントとなるよう、様々なテーマのイベントと組み合わせた取り組みにより、イベントへの幅広い層の参画を促す。

- 機運醸成

文豪の愛した地（自然・街並み・人）「湯ヶ島」を日々の生活の中で関わるイベント等を通じて知り、興味を持ってもらう。

3） ファンクラブ等への地域の若者の参画や文学関連人材の育成

- 人材募集

若者や中高年といったそれぞれの層に有用な広報手段を複数活用することにより人材募集を行う。

【例】
- 若者向けには、SNS による人のつながり、イベント等を通じた告知
- 中高年向けには、回覧板や折込広告、チラシ、年代毎の集まりにおける周知など

- 若者の参加拡大

文学への間口を拡げるイベント等に参加しながら、各事業への関わりを強め、事業への参画を促す。

- 文学関連人材の育成

文学の郷の賑わいづくりに係る活動に参加しながら、文学に関する学びやまちづくりに関わることで、コアメンバーとなってもらうサイクルをつくる。

4） 文学の郷を巡るモデルコースの環境整備とガイド養成

- 文学スポットの認識

点在する文学スポットを地図にまとめ、文学的な要素の多いエリアであることの認識を深める。

- コースの造成

文学スポットを巡りやすいようにいくつかのモデルコースをつくり、地図で紹介する。必要に応じ環境整備も進め、文学の郷の雰囲気の創出に務める。

- ガイドの養成

地図づくり・コースづくりを通じてガイドを養成し、地域学習の推進、文学人材の確保に役立てる。

5） 次世代を担う子どもたちへの文学の郷の誇りの伝承

- 地域団体間の連携

地域団体が連携し、子どもたちの学びと遊びを両立した「楽しみつつ学ぶイベント」を実施する。

- 子どもの参画

上の家や、営林署跡地の公園、コミュニティ複合施設を活用した子どものためのプログラムを造成し、体験しやすく、日々の生活の中で文学を学べる環境を整える。

６） 湯ヶ島地区地域づくり協議会事業との連携

- 事業連携

　地域づくり協議会で実施する事業との連携を進めながら、文学の郷構想を地域に一層知ってもらう取り組みを進めることで、地域の応援者・協力者の拡大を図る。

- 体制構築

　現在の行政と地域との関わりを深化させ、連携を進める。

- 検証・見直し

　事業を進める中で、検証・見直しを随時実施し、協働の体制を推進する。

Ⅱ　文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実

　文学まつり事業や地域振興拠点づくり事業において、それぞれの事業を実践してきた人材を中心に幅広く意見を伺いながら、湯ヶ島地区の賑わい創出につながる拠点の構築や、文学・歴史資産を活用した公園整備事業等を総合的に推進する。また、ソフト事業も並行的に行い、整備後速やかに各拠点の運営に積極的に関われる体制を整える。文学の郷の景観・環境を守り、維持していくための取り組みを、地域と行政が連携して推進する。

１） みんなの公園としての営林署跡地の整備

- 地元住民や観光客が訪れる公園整備

　住民の意向を踏まえた公園設計をするとともに、営林署跡地であったことなど、「この地の歴史や文化を地元住民や観光客が知る工夫」を盛り込んだ公園として整備する。

- 維持管理

　維持管理にあたっては、日々の生活に根付き、誰もが関わりやすい維持管理の方策を創意工夫により実現することを目指す。

- ファンクラブ

　公園を活用したイベントや日常の維持管理の一翼を担う組織として、ファンクラブの設置を推進する。

- しろばんばの里のクロスポイント（交差点）として位置づける

　井上靖資料室と上の家をつなぐ場所、住民や観光客の散策の拠点として、周遊しやすい整備を行う。また、地元住民の生活に根付く地区の共同湯とも近接することから、連携の可能性を検討する。

２） 上の家[4]の利活用

- 「文学の郷おもてなし拠点」としての活用

　地元ファンのコミュニティの場とともに、地元住民によるおもてなしを中心に上の家の公開を進めつつ、『しろばんば』に関する展示及び温泉と文学を結びつける「湯ヶ島文学ブランド」を発信する場として活用を進める。

---

[4] 「上の家」は、井上家本家であり、井上靖の母・八重の実家である。小説『しろばんば』にも登場する。明治６（１８７３）年、靖の曽祖父である潔によって建てられ、その後、祖父の文次が「かの屋」という呉服屋を営んでいた。なまこ壁の残る風情あふれる建物は、『しろばんば』の世界を体感できる。

● 施設整備

活用の持続性を検討しながら、施設整備の方向性を整理する。また、底地についても、所有者の意向を伺いながら、買い取り、または、借地を視野に協議を進める。

● 上の家版ファンクラブ

利活用を推進する組織を立ち上げ、運営はこの推進組織が担う。

● 試行実施

実証実験により出た課題を整理したうえで、事業を試行的に実施する。

3） 市民活動センター（旧湯ヶ島小学校）・井上靖資料室の活用

● 井上靖資料室の整備

車での来訪者等のスタート地点として位置づけ、井上靖に関する資料展示の他、文学的な拠点を巡る仕掛けを施し、このエリアの回遊性を高める。

● 天城図書館との連携

営林署跡地の公園活用の一つに「文学を楽しめる公園」としての要素を位置づけ、図書館との連携を図りながら、エリアの面的な活用を進める。

● 地域の憩いの場としての活用

放課後の小学生の居場所として位置づけ、地域づくり協議会居場所サロンとの連携を進める。

4） 文学拠点の面的活用による地域の賑わい創出

● 地域の憩いの場と面的な活用

地域の憩いの場や賑わい拠点として、公園や上の家、新設の市民活動センター（天城図書館・井上靖資料室）、天城湯ケ島支所芝生広場等の一体的な活用を促し、面的な活用を進める。

● サイン整備

湯ヶ島地区全体のサインを整理し、サイン計画を検討した上で、拠点と関連する周辺道路の周遊ルート、案内サインの整備を行う。

5） 湯ヶ島の散策環境の保全

● 歩行者の視点に立った歩行者空間の整備

景観まちづくり計画との整合性を図りながら、案内サインを整備するとともに、住民や観光客が安心して歩くことができる歩行者の視点に立った散策環境を整える。

● 熊野山（墓所・参道）

あすなろ忌や、墓参の周遊ルートの環境整備を行い、湯ヶ島温泉の散策ルートの一つに位置づける。また、三十三番観音の散策ルート、長野川沿いの散策ルートともつなげ、熊野山一帯の周遊ルートを整備する。

● 湯道

文学碑や文学スポットを、湯ヶ島の自然や空気感を味わいながら周遊できるモデルコースを設定し、必要な環境整備を行う。

● 洪作少年の歩いた道

旧下田街道は、昔ながらの雰囲気が感じられる散策環境の整備を推進し、国道 414 号は、昔の面影を残す統一的な宿商店街の街並み形成を促進する。

6） 旧井上邸再移築

- 旧井上邸を含むネットワーク化
  上の家、営林署跡地などの文学スポットを拠点として位置づけ、それらを線で結びネットワークの構築を図る。

- 移転に向けた準備
  先行事業が軌道に乗り、維持管理体制が構築された段階で、ネットワーク化と併せ費用対効果を検証する。

Ⅲ 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり

持続可能な地域づくりを進めていくため、文学の郷を認知してもらい、文学の郷に関わるファンを増やしていくための効果的な情報発信を行う。

1） 地元住民が地域のイベントを知り、関わることができる仕組みづくり

- 広報媒体の整理
  沿道の看板整備や日常的に良く見るものを整理し、事業周知の広報媒体とすることで、１人でも多くの市民に知ってもらう取り組みを進める。

- 媒体の使い分け
  地元住民の年齢層に応じた広報媒体の使い分けを行い、可能な限り幅広い年代に伝わるよう努めるとともに、参画する住民の連絡・情報共有手段としての活用も進める。

2） SNS 等を活用した情報発信体制の構築

- 若者の協力
  SNS を得意とする若者と協力し、情報発信を行う。

- 協力者の募集
  年齢層に応じた広報媒体の使い分けを行う。

- インバウンド
  SNS を活用することにより、湯ヶ島地区の魅力を国内外に発信し、観光誘客にもつなげる。

3） 情報発信体制の強化と文学関連事業の整理、拡充

- 情報発信の集約化
  関係者で連携し事業を進めることで情報の集約化を図り、一括して情報発信を行う。

- 情報発信体制の構築
  情報を集約する体制を整え、情報の一元化を図り、プラットホーム的な情報発信体制を確立する。個々の関係者が持つ情報発信ツールを活用しながら、多元的な情報管理体制も確立し、効果的な情報発信体制の構築を図る。

- 通年化
  現在１月～３月に限定して実施されている文学まつり事業について、関係団体と調整し、１年を通じて取り組める体制や環境を整える。

- 日本遺産
  現在認定を見据え、申請を進めている日本遺産事業との連携を目指す。

4） 文学ネットワークの構築

● 各地の文学館と連携した広報

伊豆市近代文学博物館や井上靖文学館をはじめとした各地の文学館や博物館と連携し、広域的に「文学の郷としての湯ヶ島」の認知度を高める。

●連携企画の推進

湯ヶ島にしかない資料等を整理・把握し、各地の文学館と企画の連携を行う体制を構築する。

● 地域外との文学ネットワーク体制の推進

・地域外の文学ファンとつながる機会を創出する。
【例：旅行商品の造成、文学ファンツアーの開催等】

・全国、世界の文学資源や人材とつながる機会を創出する。
【例：日本遺産認定による地域活性化事業、文学サミットの開催等】

5） 「湯ヶ島文学」のブランド化の推進

● 文学関連グッズ等の企画・開発

各プロジェクトの自主財源の一助となるよう、文学関連グッズの企画、開発、制作、販売を支援する。

● ブランド化に向けた各種企画の推進

湯ヶ島ならではの企画や、温泉、お土産などと文学を絡めた形でブランド化を促し、湯ヶ島エリアの付加価値を高める。

「しろばんば」の手ぬぐい

「伊豆の踊り子」のタオル

井上靖資料室の様子

■湯ヶ島地区整備・活用箇所想定図

グランドデザイン提案書、要望書を参考にしながら、下図のような整備を地域と協働により進めるものとする。

※公園の設計にあたっては、地元住民の意向を可能な限り取り入れ、整備を行うものとする。
※整備にあたっては、市の予算、地域の運営組織の構築状況などを鑑み、柔軟に対応するものとする。
※道路については、測量により再度検討し、整備個所等を決定するものとする。
※「歩行者環境の整備」は、主にバリアフリー化や電柱の移設などを想定している。

5. 構想の実現に向けた取り組み（重点プロジェクト）

グランドデザイン推進会議やその各部会において検討を重ねた結果、以下の項目を重点的かつ優先的に実施する取り組みとして重点プロジェクトに位置づけ、地元住民・関係団体（事業者）・行政の三者が一体となり活動に取り組むこととする。

重点プロジェクト（1）

ファンクラブ活動による地域の若者参画・人材育成

湯ヶ島地区に点在する文学・歴史資産を活用しながら、文学と賑わいが融合する施策を検討し、地元主体の「ファン」が活動の中心を担う体制を構築する。この体制を地域づくり協議会や行政が支援することにより、文学を軸に賑わいづくりを推進する体制を整える。

重点プロジェクト（2）

営林署跡地の活用とファンクラブによる地域住民主体の公園づくり

井上靖の小説『しろばんば』に登場する主人公の洪作少年や、子どもたちの遊び場であった「帝室林野管理局天城出張所」の営林署跡地を湯ヶ島地区の賑わい創出につながる拠点として活用するために、公園としての整備を進める。整備後は、重点プロジェクト（1）のファンクラブ組織を活用することで、より積極的な地域の関与を促しながら、地域と行政が連携した取り組みを進める。

重点プロジェクト（3）

上の家の利活用

上の家は、井上靖の小説『しろばんば』に登場する実在の住宅である。一部増改築された部分もあるが、作品当時の様子を今に伝える貴重な建築物である。本構想の対象エリアの一つである「しろばんばの里エリア」の象徴的な建物として活用しながら、保全・維持管理をしていくために必要なハード整備・ソフト事業を行い、地域の賑わいづくりの一助とする。

重点プロジェクト（4）

文学の郷を巡る周遊環境の整備

湯道エリアである湯ヶ島温泉周辺は、文豪と縁の深い温泉旅館が点在し、湯ヶ島の自然や空気感を楽しみながら周遊できる散策ルートとなっている。これらを活かすために、景観面で好ましくない廃屋の撤去も進んでいるが、渓谷周辺の荒廃した山林や文学・歴史資産へアクセスする歩道環境の維持、旧下田街道などの趣のある街並みの保全等も喫緊の課題となっているため、景観保全に向けた環境整備を推進する。

重点プロジェクト（5）

文学の郷情報発信プロジェクト

湯ヶ島地区の魅力を地域内外への認知を高めながら、ファンを増やしていくためには、「文学の郷」としての戦略的な情報発信と魅力的な文学の郷コンテンツが必要である。そのために、地元主体で取り組むための情報発信の体制を強化するとともに、文学関連の商品・コンテンツの造成を進める。

（1） ファンクラブ[5]活動による地域の若者参画・人材育成

関連施策	施策 Ⅰ 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり 1）定期的な情報交換の場 3）ファンクラブ等への地域の若者の参画や文学関連人材の育成 5）次世代を担う子どもたちへの文学の郷の誇りの伝承 施策 Ⅲ 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり 1）地元住民が地域のイベントを知り、関わることができる仕組みづくり 2）SNS 等を活用した情報発信体制の構築 4）文学ネットワークの構築
主体	地元住民主体のファンクラブ、湯ヶ島地区地域づくり協議会、伊豆市

湯ヶ島地区に点在する文学・歴史資産を活用しながら、文学と賑わいが融合する施策を検討し、地元主体のファンが活動の中心を担う体制を構築する。ファンクラブ活動にあたっては、組織活動を通じて、文学に触れる間口を広げ、地域の若者から地域外の文学ファンまで幅広い人材の発掘を行い、携わる人材の確保や育成を推進する。

1）基本的な考え方

湯ヶ島地区を愛するファンによる文学の郷づくり

持続可能な地域づくりを進めるためには、地元住民を中心に、地域に誇りを持ち、主体的に地域づくりに参画することが重要である。湯ヶ島地区の地元住民が、地元を愛し、暮らしやすい地域であり続けるために、地域活動を担うファンを増やし、本構想の実現を目指す。

【ファンクラブの方向性】

●誰でも参加できる組織であること

ファンクラブは、湯ヶ島地区を愛し、地元のために集まる人々の集まりであって、全ての人に開かれた組織であること。

●楽しむ活動を行うこと

楽しみ、自然に続けられる活動になるよう、常に考え活動を行うこと。

2）具体的な取り組み

関連施策を進めていくために、以下の取り組みを優先して進めていく。

●営林署跡地活用ファンクラブの運営

・営林署跡地について、地元住民主体の管理運営を進めるために、管理運営や地域活動に参画できるファンを増やし、公園づくりのための機運醸成となる企画や勉強会を定期的に開催する。

●地元ファンのネットワークの構築

・湯ヶ島愛を育み、地元のファンを増やすために、子どもから高齢者まで湯ヶ島の魅力を共有できるファンミーティング[6]を開催する。

・持続可能なファンクラブの体制を構築するために、湯ヶ島地区地域づくり協議会を中心に、ファンクラブの活動支援を行う。

【例：活動の地域内広報、地元協力者の紹介、協議会における事業化等】

●地域外との文学ネットワーク体制の推進

・地域外の文学ファンとつながる機会を創出する。

【例：旅行商品の造成、文学ファンツアーの開催等】

・全国、世界の文学資源や人材とつながる機会を創出する。

【例：日本遺産認定による地域活性化事業、文学サミットの開催等】

---

[5] 「ファンクラブ」とは、湯ヶ島を盛り上げていこうという気概を持つコアな住民、湯ヶ島における地元愛を育む地元住民、湯ヶ島文学のファン、地域の交流拠点・文学拠点の利用者や活用者たちが「湯ヶ島を盛り上げていこう」というかけ声のもと集まった組織のこと。

[6] 「ファンミーティング」とは、ファンクラブの定期的な情報交換の場や、実施するイベントのこと。

（２） 営林署跡地の活用とファンクラブによる市民主体の公園づくり

関連施策	施策 Ⅰ 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり １）定期的な情報交換の場 ３）ファンクラブ等への地域の若者の参画や文学関連人材の育成 ５）次世代を担う子どもたちへの文学の郷の誇りの伝承 施策 Ⅱ 文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実 １）みんなの公園としての営林署跡地整備 ４）文学拠点の面的活用による地域の賑わい創出 施策 Ⅲ 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり １）地元住民が地域のイベントを知り、関わることができる仕組みづくり
主体	営林署ファンクラブ、湯ヶ島地区地域づくり協議会、伊豆市

井上靖の小説『しろばんば』に登場する主人公の洪作や子どもたちの遊び場であった「帝室林野管理局天城出張所」の営林署跡地を湯ヶ島地区の賑わい創出につながる拠点として活用するために、誰もが散策できる公園として整備を進める。公園整備においては、湯ヶ島地区の文学・歴史資産や自然環境を活かした整備を行う。

１）基本的な考え方

「みんなが楽しく利用できる公園」

老若男女、地元住民が公園の利用から管理まで楽しく関わることのできる公園を目指す。
「この公園をみんなで守り、盛り上げよう！」というファンを増やし、湯ヶ島地区の賑わいの核となる公園づくりを目指す。

２）基本方針

① 文学・歴史散策の拠点づくり

湯ヶ島地区の周辺資源（旧井上邸、井上靖資料室、弘道寺、天城神社、若山牧水歌碑、湯道、出会い橋等）を散策・ウォーキングするための拠点として整備する。

② 生きいき過ごせる健康づくり

少子高齢化に伴い、湯ヶ島地区で高齢者が健康に暮らせる場としての機能を創出する。具体的には、遊歩道によるウォーキング運動の場や、健康遊具設置による健康づくりの場を創出し、地元住民も日常的に利用しやすい公園として整備を進める。

③ 生きいき賑わいづくり

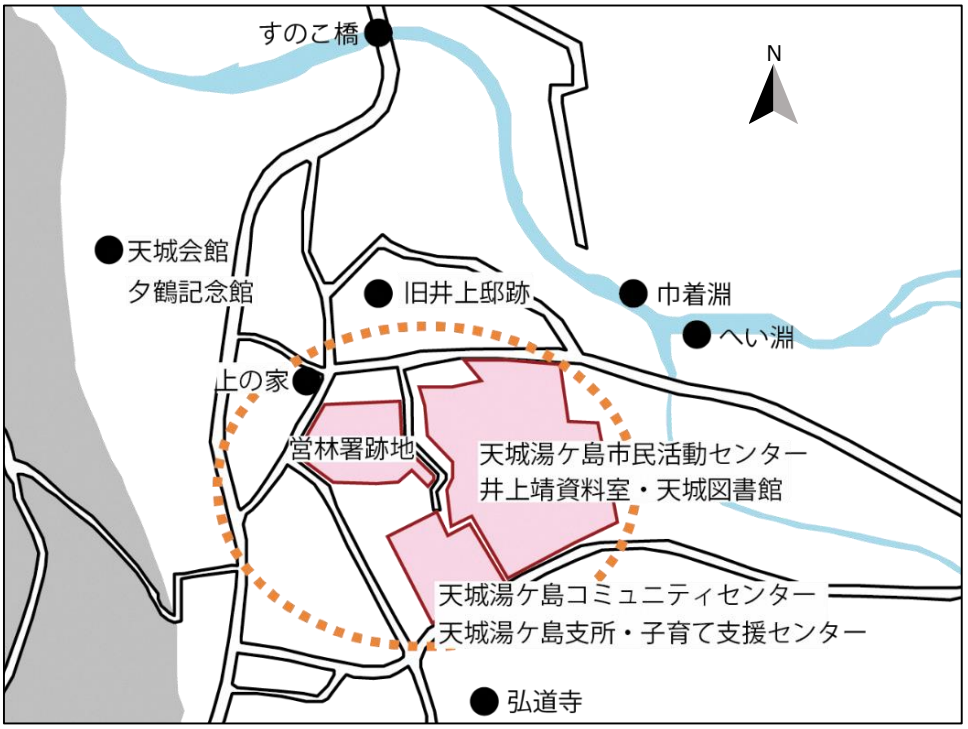
人が集まり、楽しく、利用できる機能を創出する。具体的には、敷地の高低差を活かした展望デッキや、子どもがのびのび遊ぶ芝生広場、井戸を活用した水遊びのエリアを創出する。

④ 観光交流の場づくり

文学散策に訪れる観光客や旅館宿泊客が湯ヶ島の景観を楽しみながら散策できる場を創出する。

３）対象エリア

営林署跡地及び天城湯ケ島コミュニティセンター、市民活動センター周辺を対象エリアとする。



４）整備の基本的方向性

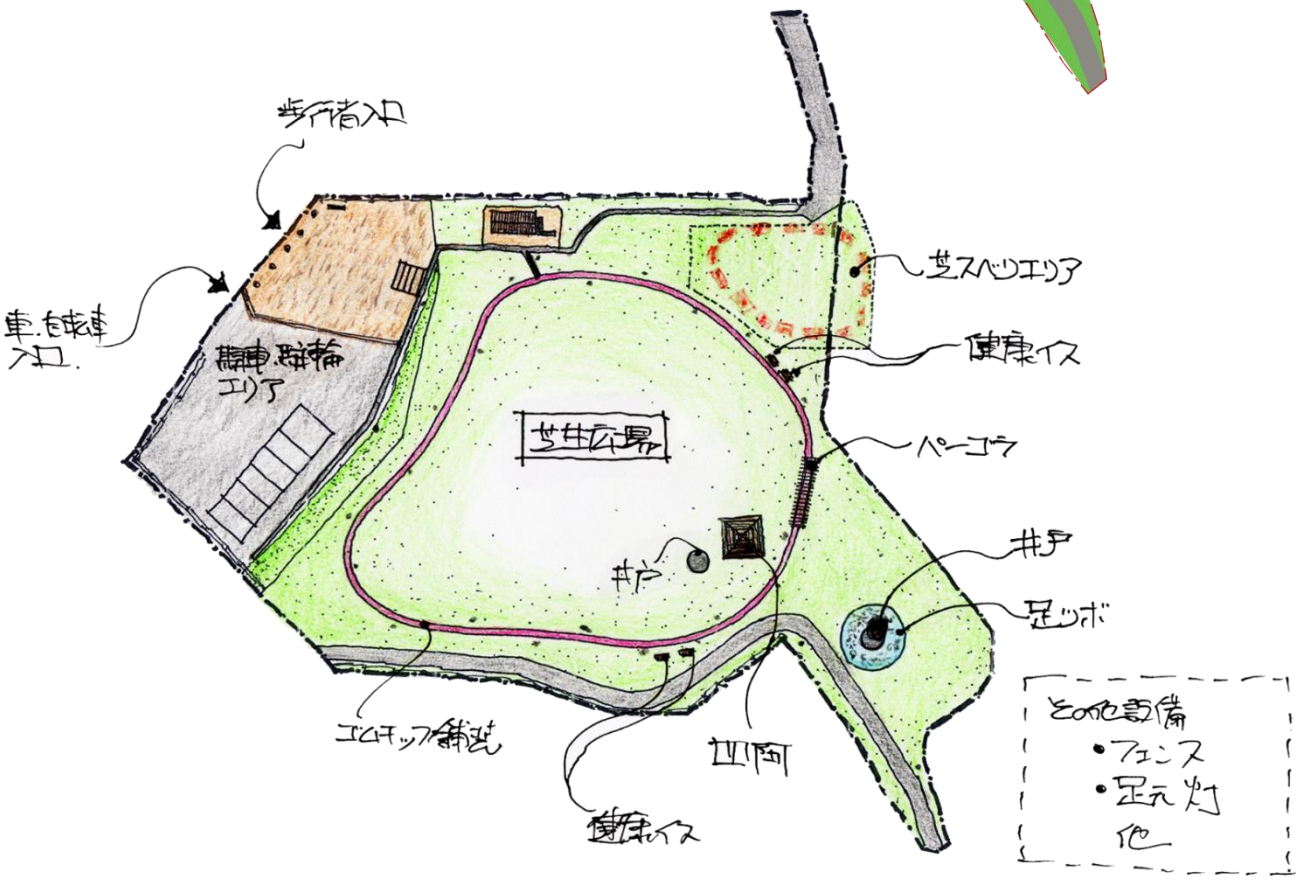
公園整備の基本的方向性として、以下の機能の整備を目指す。

整備する機能	整備の方向性
駐　車　場	駐輪・駐車スペースは、上の家とのアクセスを考慮し、北側スペースに確保する。
遊　歩　道	健康づくりの機能として、ウォーキングするために敷地全体を周遊できるルートとする。
ト　イ　レ	近隣施設との立地状況や管理面を考慮し、トイレの設置を検討する。
四阿（あずまや）	敷地の高低差を利用して、展望デッキと日陰となる四阿を設置し、富士山を眺望でき、休める場所としての整備を行う。
井　戸	防災機能として井戸を利用できるように整備する。また、子どもが井戸で水遊びのできる空間をつくり、賑わいを高める仕掛けを施す。
芝生エリア	管理面を配慮しながら、芝生エリアの整備を検討する。
健康遊具	健康づくりの機能として、健康遊具を設置する。
倉　庫	公園の運営にあたり、管理スペースとして倉庫の設置を検討する。
芝　滑　り	グラウンドの境界で高低差を活用し、子どもが遊べる芝滑り場を整備する。
由来ある樹木	天城九木[7]の歴史を学びながら公園の景観に配慮して植栽する。
イベントスペース	賑わいづくりのためのイベントができるエリアを創出する。
周辺道路	公園や近隣施設にアクセスしやすい道路の整備を検討する。

[7] 天城九木とは、天城御料地の代表的な木材となる樹種９種を指す。

■営林署跡地・上の家・コミュニティセンター・市民活動センター利用計画図

■営林署跡地公園イメージ

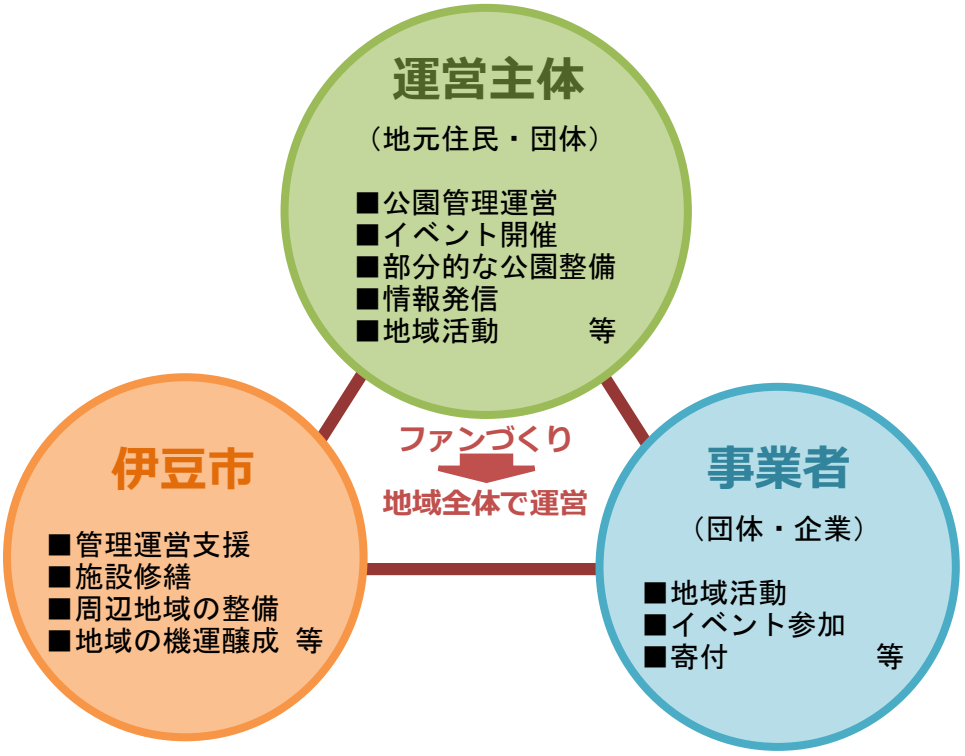


※公園の設計にあたっては、地元住民の意向を可能な限り取り入れ、整備を行うものとする。
※整備にあたっては、市の予算、地域の運営組織の構築状況などを鑑み、柔軟に対応するものとする。
※道路については、測量により再度検討し、整備個所等を決定するものとする。
※今後の計画については、都市計画、まちづくりに関する有識者の意見も参考にしながら進めるものとする。

５）管理運営方針

公園の管理運営について、地元住民が主体となる公園づくりを目指す。行政は地元住民が利用しやすい運営の支援やハード面における修繕等を行う。地元住民と行政、また地域団体や事業者と協働し、公園づくりを進めることで各主体の協働機運を醸成する。公園のファンを増やすことにより、地域全体で公園の運営を支える体制の構築を図る。

管理運営体制イメージ



６）具体的な取り組み

関連施策を進めるため、以下の取り組みを優先して進める。

●営林署跡地活用ファンクラブの運営

・地元住民主体の管理運営を進めるために、管理運営や地域活動に参画できるファンを増やし、公園づくりのための機運醸成となる企画や勉強会を定期的に開催する。

●地元主体の公園づくりのための機運醸成

・地域の健康づくりを推進するために、整備後の公園において健康づくりプログラムの普及啓発を図る取り組みを行う。

【例：健康増進ウォーキングイベント、計測スポットの設置、未病料理講座等】

・公園への愛着を育むために、地元住民が公園整備に直接的に関わる仕組みをつくる。

【例：公園のベンチや四阿づくり、花壇づくり等】

・地域活動やイベント等を行い、公園の使い方について実験を行うとともに、結果を検証し、ルール化を図り、「みんなに愛される公園」を目指す。

【例：マルシェ開催、音楽イベントの開催、川遊びプログラムの拠点等】

●公園整備に関する勉強会の実施

・持続可能な公園の管理運営の方法ついて、勉強会を開催する。

●わかりやすく、統一的なサイン整備

・公園整備におけるサイン・看板について、景観に配慮した設置を検討する。

※維持管理、修繕業務などの分担については、設計段階において地元と協議を行い、決定するものとする。

（3） 上の家の利活用

関連施策	施策 Ⅰ 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり 1）定期的な情報交換の場 2）あすなろ忌などの文学関連イベントへの市民の参画 3）ファンクラブ等への地域の若者の参画や文学関連人材の育成 4）文学の郷を巡るモデルコースの環境整備とガイド養成 5）次世代を担う子どもたちへの文学の郷の誇りの伝承 施策 Ⅱ 文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実 2）上の家の利活用 4）文学拠点の面的活用による地域の賑わい創出 6）旧井上邸再移築 施策 Ⅲ 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり 1）地元住民が地域のイベントを知り、関わることができる仕組みづくり
主体	上の家版ファンクラブ、あすなろ会、井上靖ふるさと会、湯ヶ島地区地域づくり協議会、伊豆市観光協会天城支部、伊豆市

上の家は、井上靖の小説である『しろばんば』に登場する実在の住宅である。洪作少年の母方の実家にあたり、作品中でも重要な場面で描かれている。一部増改築された部分もあるが作品当時の様子を今に伝える貴重な現存建築物である。

1）基本的な考え方

「しろばんばの世界の体験と地域の憩いの場」

「しろばんばの里」として、当時の雰囲気を残す建物が少なくなってきている中、物語の舞台としても重要な建物である上の家を保存し、訪れる人や地域で井上靖を学ぶ子どもたちに『しろばんば』の世界を追体験してもらう取り組みをハード、ソフトの両面から推進する。

2）基本方針

① 地元住民のくつろぎの場

地元住民が集まり、くつろげる場としての活用を目指す。観光客にも開放し、訪れた観光客に井上靖の逸話等を地元の人たちが伝える場としての活用も進め、交流の拠点、賑わいの中心地として上の家を位置づける。

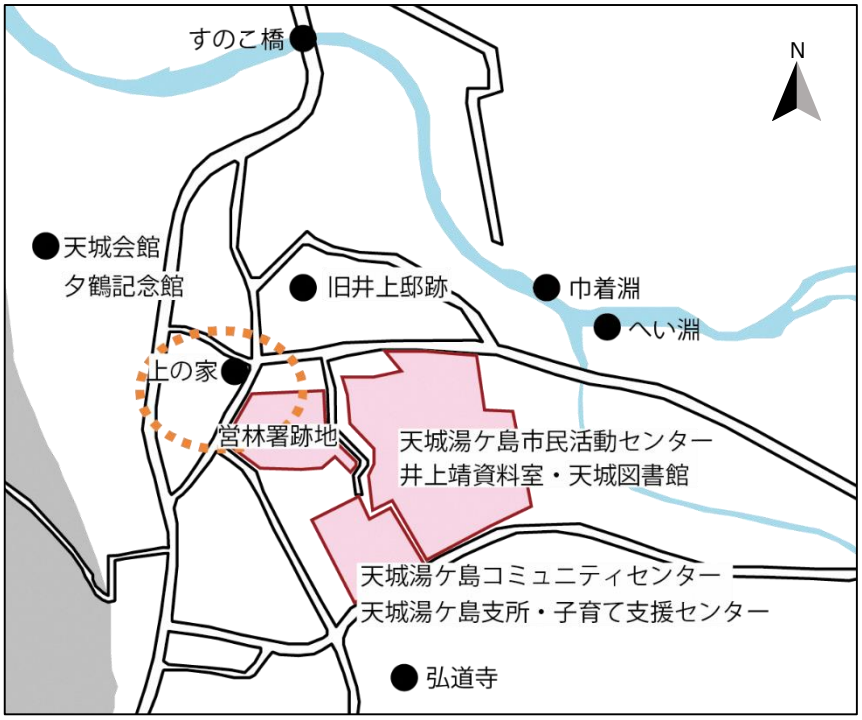
② 井上靖ファンはもちろん、通りがかった人も新たに関心を持てる場所

物語の舞台となった「上の家」を訪れ、その空気感を味わうことで、『しろばんば』の世界観を体感できる場所としての活用を目指すとともに、井上靖文学館との連携による臨場感を活かした展示等で、井上ファンのみならず、すべての来訪者が井上作品を知る場としての活用を進める。

③ 運営管理は地域で行い、身の丈に合った無理のない活用を進める

地域で運営管理を行い、楽しく無理のない活用の方法を試行実施により検討し、持続可能な運営体制の構築を進める。運営する側も、訪れる側も楽しく過ごせる環境を整える。

３）対象エリア



４）具体的な取り組み

関連施策を進めていくために、以下の取り組みを優先して進める。

●お試し縁側カフェの実施

・縁側カフェを参考とした身の丈に合ったカフェ運営を行うべく、月２回程度のお試しでの縁側カフェを実施し、課題の抽出を行う。

・活用の幅と参加者の間口を広げるためのワークショップ等を企画し、その効果や課題を検証する。【例：手芸教室など】

●井上靖文学館との連携

・『しろばんば』の世界を追体験できる場所として、井上靖文学館と連携した企画展示を行う。

・湯ヶ島の魅力が伝わる「湯ヶ島文学」限定グッズを井上靖文学館と連携して開発し、その販売を行うことで、旅の思い出品やお土産品として活用してもらい、「湯ヶ島文学」のブランド化を推進する。

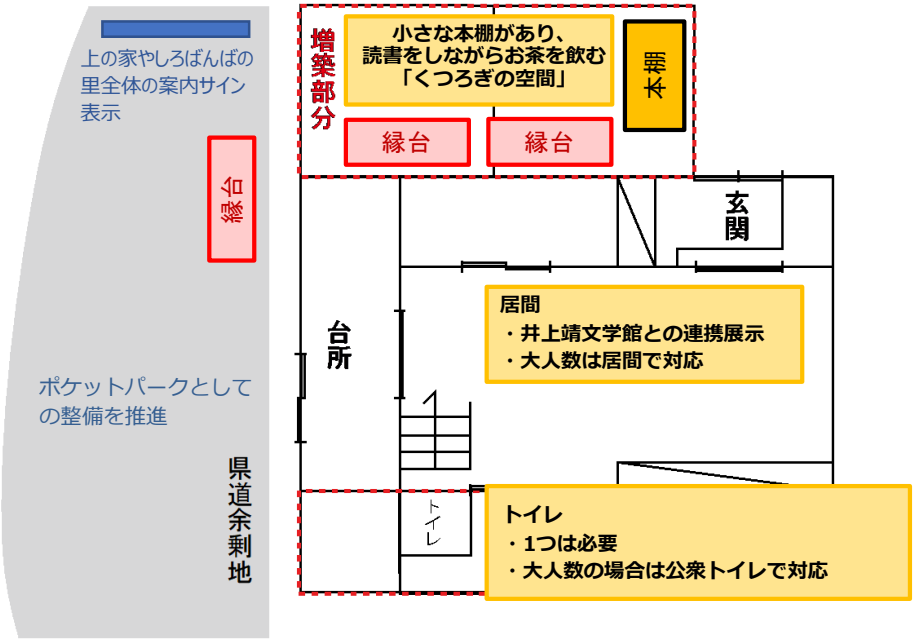
●上の家版ファンクラブ

・上の家の利活用を進めるため、ファンクラブを立ち上げ、「みんなで上の家を盛り上げる」体制を整える。

●県道余剰地の活用

・上の家に隣接する県道余剰地については、観光案内板を整備し、ポケットパークとしての利用を促す。

■整備イメージ



利用者
地元住民
井上靖ファン

●くつろぎの場
お茶や塩おはぎ・わさび羊羹でのおもてなし
※調理が必要なものは扱わない想定

●営林署跡地との関わり
公園にある四阿やベンチで上の家でもらったお茶を飲みながら読書
※営林署跡地との一体利用を想定

●井上靖文学館と連携
文学の間口をひろげる体験や企画展示で協働し伊豆の文学巡りの拠点に

「上の家版縁側カフェ」の実証実験を行い、整備後をイメージした上の家の活用方法を試行する。

実証実験等の取り組みの様子

上の家見学会の様子。地元でも入ったことがない人が多く、利活用イメージを持てるようにと開催された。

上の家公開デーとして、おもてなしを試行。屋内・屋外展示は井上靖文学館の協力により行った。

親子イベントのスタンプラリー会場として、上の家を子どもが訪れる機会づくりを実施した。

上の家オリジナルのお土産品を試行的に開発した。

上の家を利用した手芸教室の様子。
カフェ利用以外の使い方も試行した。

（4） 文学の郷を巡る周遊環境の整備

関連施策	施策 Ⅰ 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり 4）文学の郷を巡るモデルコースの環境整備とガイド養成 6）湯ヶ島地区地域づくり協議会事業との連携 施策 Ⅱ 文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実 5）湯ヶ島の散策環境の保全
主体	湯ヶ島地区地域づくり協議会、伊豆市観光協会天城支部、伊豆市

湯道エリアである湯ヶ島温泉周辺は、文豪と縁の深い温泉旅館が点在し、湯ヶ島の自然や空気感を楽しみながら周遊できる散策ルートとなっている。これらを活かすために、景観面で好ましくない廃屋の撤去も進んでいるが、渓谷周辺の荒廃した山林や文学・歴史資産へアクセスする歩道環境の維持も喫緊の課題となっているため文学の郷として、魅力的な周遊環境構築に向け必要となる整備を行う。

1）基本的な考え方

景観資源の保全・活用と周遊性の向上による文学の郷としての賑わいの創出

地元の景観に対する意識が醸成されることで、地元に愛される豊かな自然、文学・歴史資産、趣のある街並みなどについて、地元が主体となり、地域全体で景観保全が推進され、中学生アンケートの「20 年後の天城湯ケ島」として望む声の多かった「変わらない天城湯ケ島」の実現を景観の面から推進する。

2）基本方針

① 地元意識の醸成

「湯ヶ島の魅力だと感じる」、「大切にしたい」景観を各々が考えることからはじめ、「地域の景観は地域で守る」という意識を醸成し、景観保全について地域全体、地元主体で取り組む土壌を構築する。

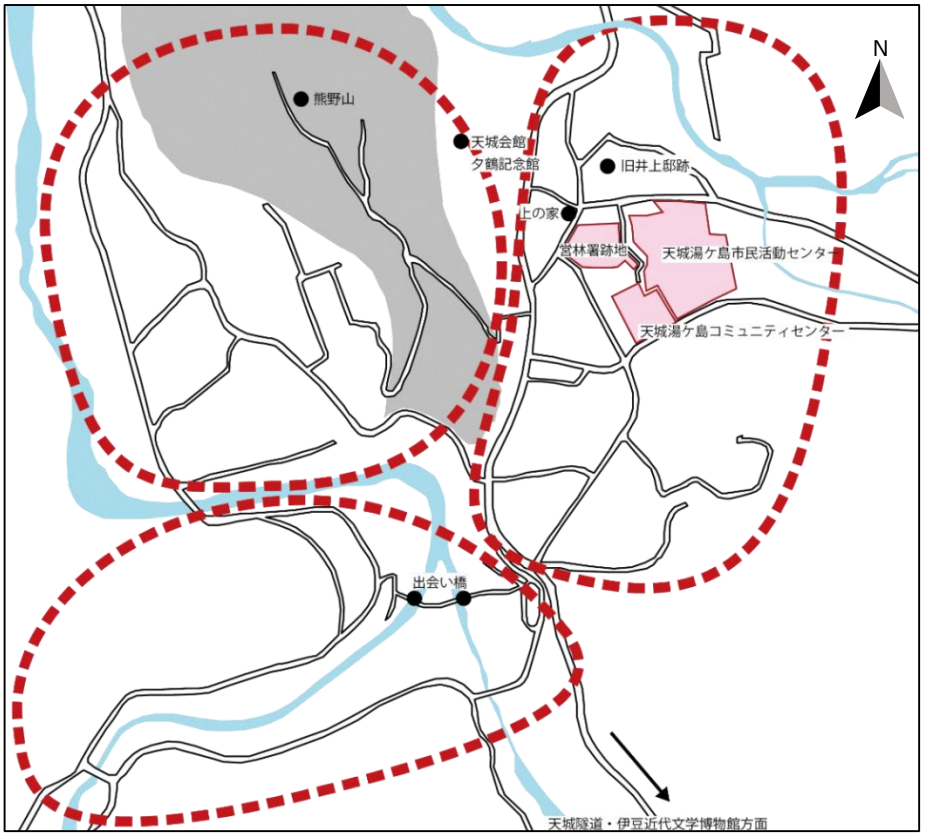
② 湯ヶ島の人たちが誇りに思う景観を地域で守り続ける

湯ヶ島の人たちが地域の魅力と感じている自然、文学・歴史資産について、地域の誇りとして将来にわたって「変わらない」よう保全するための体制構築を進める。

③ 景観資源を活かした賑わいの創出

上の家周辺、熊野山周辺、湯ヶ島温泉街の景観資源を安心、安全に周遊できる環境を整え、小説の舞台となった落ち着いた街並み景観によって賑わいが創出されるよう、景観資源を活用し、文学の郷としての雰囲気醸成を推進する。

３）対象エリア　エリアの対象として宿地区に加え、熊野山や湯道エリアも含めて考える



４）具体的な取り組み

関連施策を進めていくために、以下の取り組みを優先して進める。

●湯ヶ島地区地域づくり協議会や地元関係団体の事業と行政の連携

・地域づくり協議会などと行政が連携し、湯ヶ島地区の景観の在り方について各々が考える勉強会や地元主体の景観まちづくり活動などを行い、文学の郷としてのまとまりが地域の誇りにつながるよう、景観保全について地元の意識を醸成する。

●景観に配慮した散策環境の保全、整備

・景観まちづくり計画との整合性を図りながら、案内サインの整備を推進するとともに、湯ヶ島の自然を楽しみながら文学の郷と文学・歴史資産を安心、安全に周遊するための歩行者空間の創出、モデルコースの設定などの環境整備を進める。

５）拠点や路線に関する基本的な考え方

●国道 414 号

・文学の郷の雰囲気を醸成する。

●主要地方道　伊東西伊豆線

・歩行者環境の整備を推進する。
・旧下田街道との連続性を考慮する。

●旧下田街道

・歩行者環境の整備を推進する。
・文学の郷にふさわしい道づくりを推進する。
・主要地方道　伊東西伊豆線との連続性を考慮する。

●天城会館

・天城会館を拠点に文学エリア（旧下田街道等）や温泉場（湯道等）へ歩行者ネットワークを展開する。

（５） 文学の郷情報発信プロジェクト

関連施策	施策 Ⅰ 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり １）定期的な情報交換の場 ２）あすなろ忌などの文学関連イベントへの市民の参画 ３）ファンクラブ等への地域の若者の参画や文学関連人材の育成 ４）文学の郷を巡るモデルコースの環境整備とガイド養成 施策 Ⅲ 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり １）地元住民が地域のイベントを知り、関わることができる仕組みづくり ２）SNS 等を活用した情報発信体制の構築 ３）情報発信体制の強化と文学関連事業の整理、拡充 ４）文学ネットワークの構築 ５）「湯ヶ島文学」のブランド化の推進
主体	湯ヶ島地区地域づくり協議会、伊豆市観光協会天城支部、営林署・上の家の各ファンクラブ

湯ヶ島地区の魅力について地域内外への認知を高めながら、ファンを増やしていくためには、「文学の郷」としての戦略的な情報発信と魅力的な文学の郷コンテンツが必要である。そのために、地元主体で取り組むための情報発信の体制を強化するとともに、文学関連の商品・コンテンツの造成を進める。

１）基本的な考え方

『文学の郷』としてのプロモーションで世界中のファンを増やす

湯ヶ島地区を愛するファンをつくるために、魅力的な文学の郷づくりを進め、また、その魅力を地域内から世界へ発信することで、文学の郷のブランド化を推進する。

２）具体的な取り組み

関連施策を進めていくために、以下の取り組みを優先して進める。

●文学の郷情報発信の体制を強化

・地域の回覧板などを通じ、地域の行事を紹介する際に文学関連事業についても積極的に紹介してもらい、文学に関する情報発信を地域においても推進する。
・地域づくり協議会のホームページなど広報ツールの充実に努め、積極的な情報発信を行う。
・行政や観光協会、旅館組合と連携した情報発信の体制を構築する。
・各地の文学館と連携し、広域的な情報発信の仕組みを構築する。
・若者の SNS による発信。

●文学関連グッズの制作

・既存のお土産品等の商品やイベント等の文学コンテンツの磨き上げを行う。
・文学の郷の資源を活用し、新たな旅行商品・体験型コンテンツを企画・検討する。

●地元ファンのネットワークの構築

・ファンミーティングの開催。
・ファンクラブの活動支援。
【例：活動の地域内広報、地元協力者の紹介、協議会事業化等】

●地域外との文学ネットワーク体制の推進

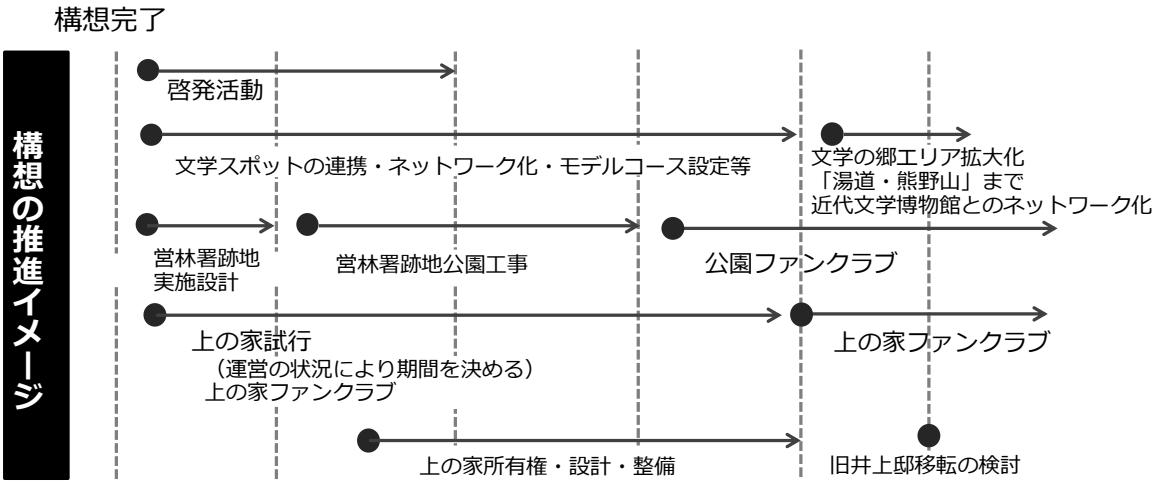
・地域外の文学ファンとつながる機会を創出する。
【例：文学ファンツアーの開催等】
・全国、世界の文学資源や人材とつながる機会を創出する。
【例：日本遺産認定による地域活性化事業、文学サミットの開催等】

6. 文学の郷構想の進捗管理

（1）構想策定後の流れ

以下の段階を実行していくことで、構想の実現を目指す。
①地元の機運を高め、協力者、理解者を増やす
②市内外の文学スポットとのネットワーク化を進め、外部人材の流入を促す
③地元要望にある整備事項を、住民の理解を得ながら進める
④整備後は速やかに地元と協働の運営体制に移る

目指す方向性	地元住民が健康で文化的かつ快適な日常生活を送れるエリア、つまり少年時代の井上靖の感じた『地球上で一番清らかな広場』を湯ヶ島地区全体で目指す。 住民の集まる賑やかな場所となることで、観光客も訪れたくなる場所となり、さらなる賑わいが生まれることを期待する。



（2）評価指標

本構想の進捗・成果を評価する指標として、以下の３つを設定する。

1） ファンクラブの参加人数

ファンクラブへの参加人数を、文学の郷構想におけるソフト事業の浸透度の評価尺度として設定し、活動量については、イベントや準備等への延べ参加人数で把握する。

参加人数目標値：延べ人数 100 人/年

2） 文学拠点の施設利用者数及び湯ヶ島地区の観光交流客数

文学拠点の賑わい状況を評価する指標として、施設の利用者数を参考とする。また、来訪者による賑わいを評価する指標としては、観光交流客数を参考とする。

施設利用者数目標値：500 人/年
観光交流客数：120 万人/年（天城湯ケ島地区全体）

3） 外部の文学館等と連携した文学イベント取り組み数

外部の文学館等との連携により、湯ヶ島地区内で取り組んだイベントの数を、情報ネットワーク構築の評価指標とする。

文学館等と連携した取り組み数：10 回/年

＜参考資料＞

アンケート調査抜粋

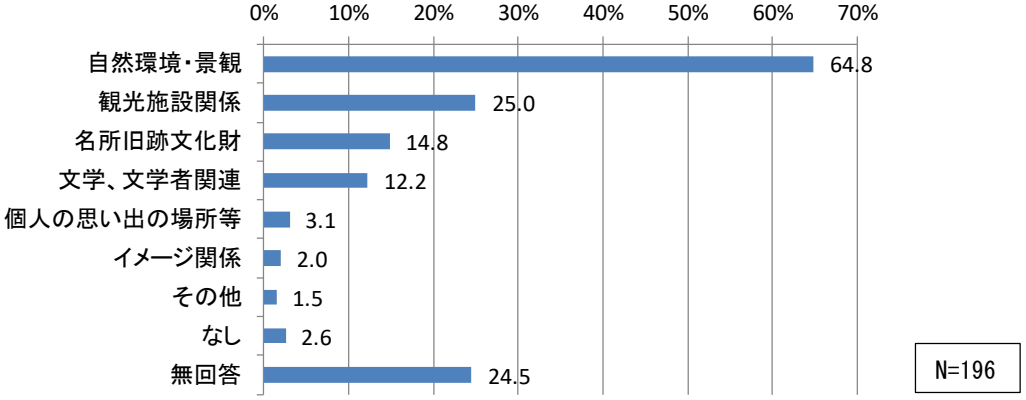
地域住民の意見（全世帯アンケート、中学生アンケート結果）

平成 30 年 8 月に実施した湯ヶ島地区全世帯アンケートには、196 件の回答があり、天城中学校の中学生から 101 件の回答を得た。

1）「私の住みたい湯ヶ島」全世帯アンケート結果概要版

● 湯ヶ島の魅力について

大切な知人や友人に紹介したい湯ヶ島のお薦めスポット

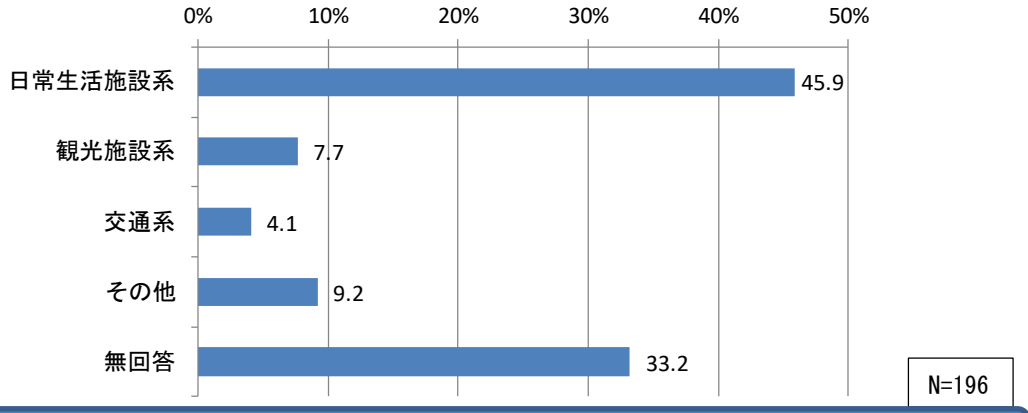


自然や景観が魅力として最も挙げられている。文学関連は名所旧跡・文化財に次いで 4 位となっている。

(自然環境、景観):127 件 ・浄蓮の滝　・わさび田、わさび沢　・ほたる、ほたる祭り　・渓谷　・自然、自然美　他
(文学、文学者関連):24 件 ・旧井上邸　・昭和の森　・井上靖関連　・川端康成関連　・文学の郷エリア　・文学の森 ・文学ストリート　・文豪たちが過ごした旅館　他

● 湯ヶ島地区にお住まいになって感じていること

「あったら良いもの」「お住まいになって感じていること」



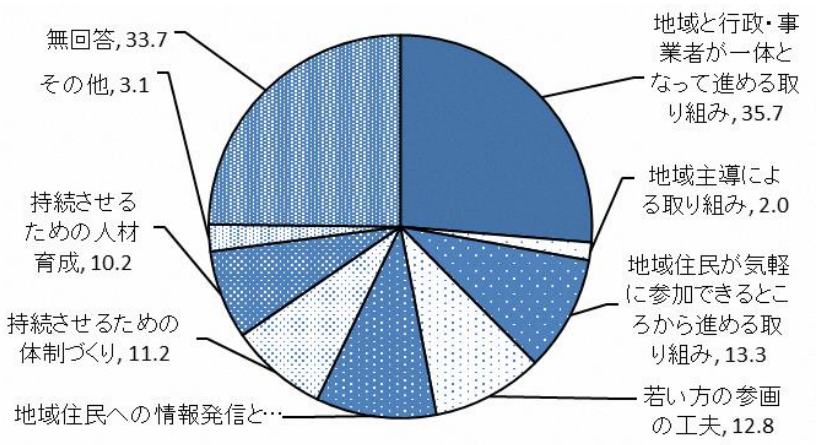
日常生活に必要な施設が最も多い。買い物・病院・飲食店・スポーツ公園が多くを占める。

(日常生活施設系):90 件 ・スーパー等、買い物ができる施設：36 件　・病院：18 件　・飲食店：11 件　・公園、スポーツ公園：15 件 ・雇用の場：3 件　他
(観光施設系):15 件 ・サイクリストの拠点：2 件・観光ガイド：2 件　・温泉・足湯：4 件　・花畑：2 件　アスレチック施設：2 件　他
(交通系):8 件 ・駅、電車：6 件　・道路、河川の整備：2 件

● 湯ヶ島地区グランドデザイン（湯ヶ島地区の将来あるべき姿）について

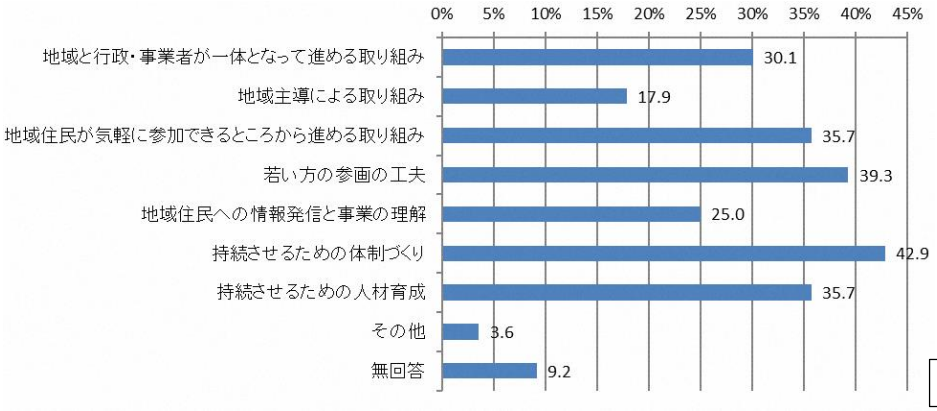
グランドデザインの実現のために重要なことは何だと思いますか

1.最重要とするもの（単一回答）



N=196

2.重要とするもの(複数回答)

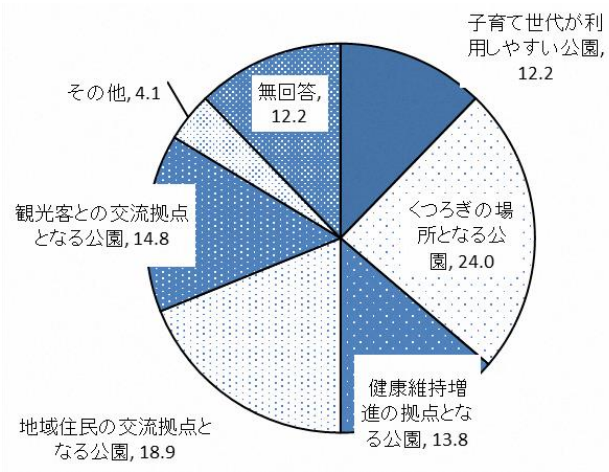


N=196

将来あるべき姿に最も必要なことは地域と行政の協働であり、重要としているものは、持続させる体制や人材育成・若者参画等の続けていくための仕組みが多くを占めた。

● 個別の事業計画について

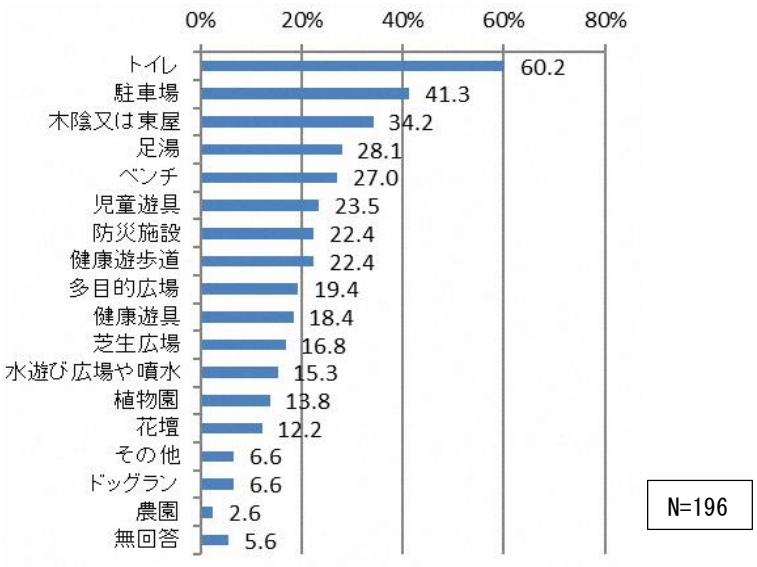
どのような公園が良いと思いますか



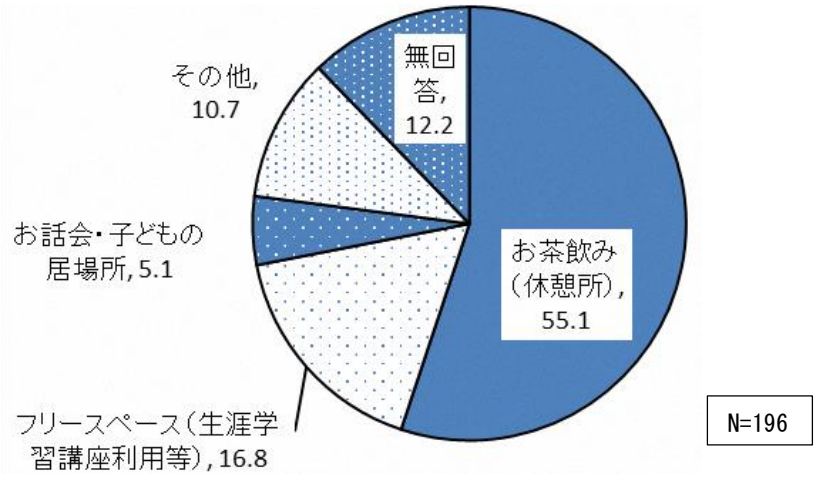
N=196

営林署跡地の活用方針の参考意見として、地元住民のための公園とした回答が 2/3 以上を占めた。

営林署跡地の公園活用・利用促進のために必要な施設



上の家の整備の憩いの場としての使い道



上の家は、休憩所としての活用との意見が過半数を占める。

その他の詳細

（整備イメージ）

・観光客と交流が出来る場（休憩所）
・地域よりお客を呼びこむ場所にした方がいいと思う。
・観光客、地域住民の憩の場、交流の場と、井上靖文学作品にふれる場所として活用。
・コミュニケーションをはかれる場所

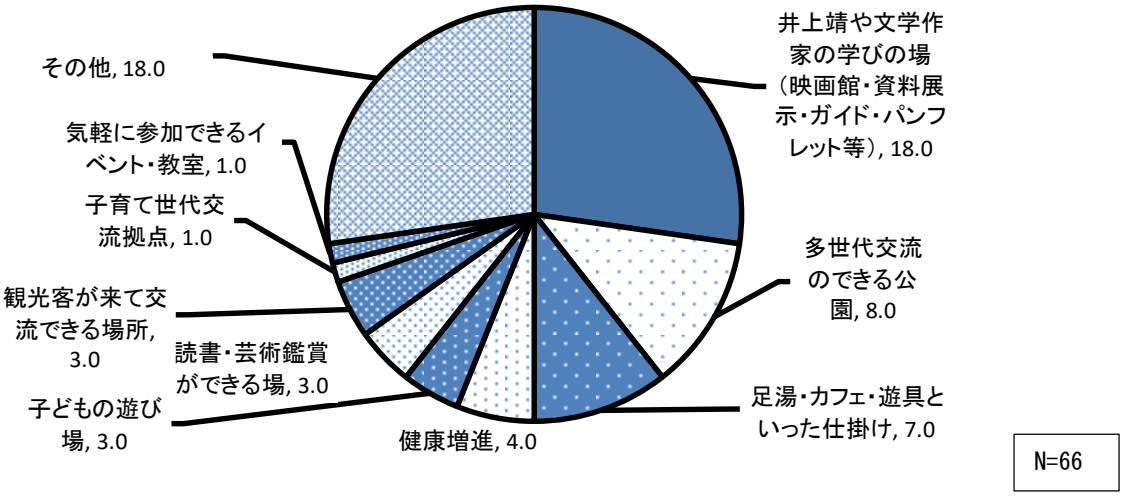
（具体的な提案）

・飲食スペース　・古民家カフェ　・図書館　・ものづくり教室等

（懸念する意見）

・維持管理がしやすいもの　・整備した後の管理は誰が行うか？

文学の郷づくりの拠点の利用促進についての意見



利用促進にむけた意見として、文学の学びの場が最も多く、多世代交流、健康増進、観光交流といった意見が多くあった。

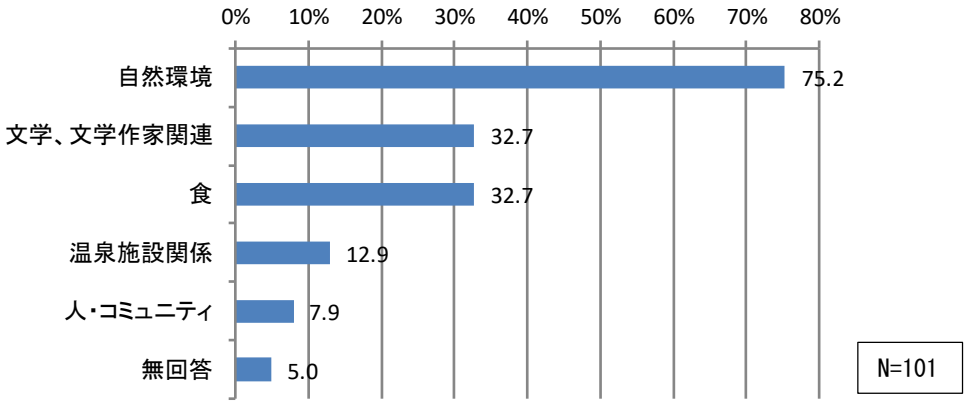
※意見抜粋

（住民生活） ・子どもの遊び場所　・子どもや高齢者が喜ぶ公園 ・健康増進に向けたもの　・文学にこだわらず、住民が気軽に利用できる施設　・健康相談ができる場 ・健康遊歩道で歩き木陰又は東屋で休み帰りにお茶で一服　・木陰で風にふかれて本を読む場・音楽鑑賞 ・地域の方と交流できる機会、施設
（観光・交流・学び他） ・観光客を呼びこめる場所　・湯ヶ島で書かれた等の縁の作品の資料情報がわかる場所 ・観光客が利用し地域の人と交流　・作家の相関を紹介する展示の工夫　・文学や天城山の自然が体験、学習できる公園　・「湯ヶ島」の魅力が全て感じられる拠点　・天館の駐車場を拠点に周遊性を持たせ各所にトイレや飲食店　・文学部の学生の研究に適した施設の活用法を学生達に考えてもらう　・来客用に接待出来る湯ヶ島特産を利用した店舗　・着物の活用とか、古いもので何か作るクラフト教室
その他 ・もっと気軽に参加できる企画　・誰でも年代関係なく参加できる　・若い人にお願いしたい

２）「私の住みたい湯ヶ島」中学生アンケート結果概要版

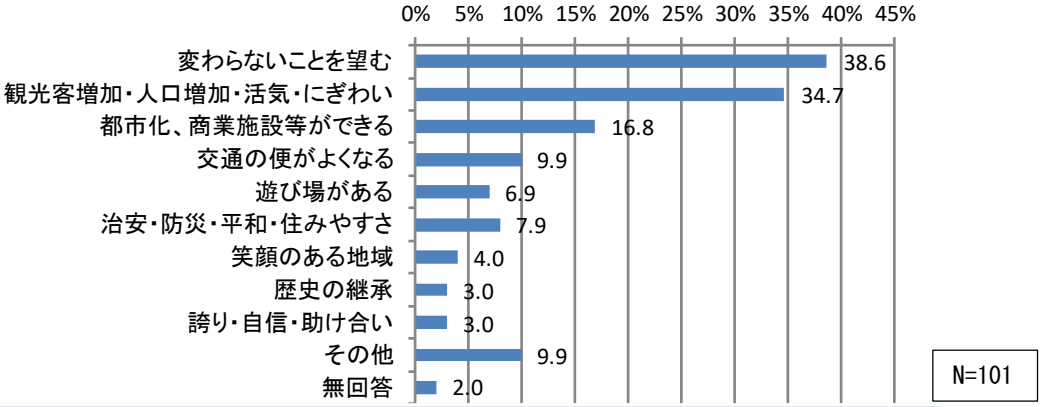
● 湯ヶ島の魅力について

私が好きな天城湯ケ島（自由回答）



自然環境を最も魅力と感じるのは大人と同様。文学、文学作家関連が同率２位と文学教育の成果がうかがえる。

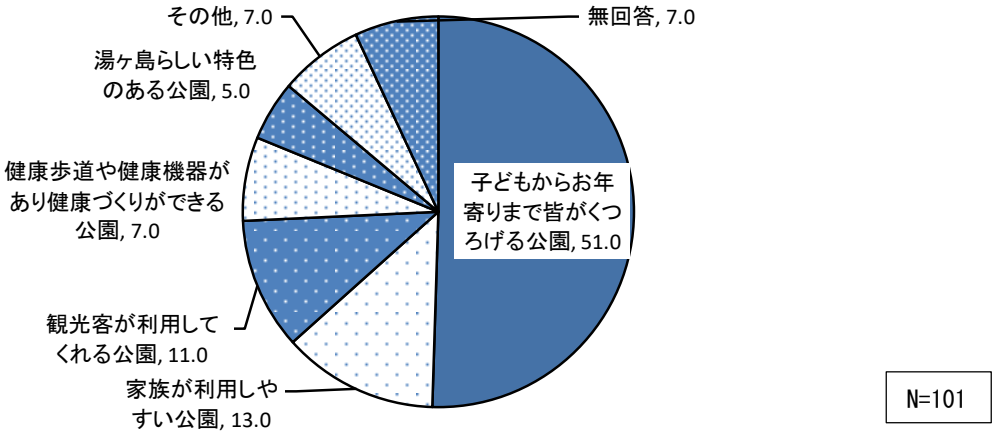
20 年後にどんな天城湯ケ島になっているといいと思いますか



賑わい・商業施設を求めているが、変わらないことも望んでいる。

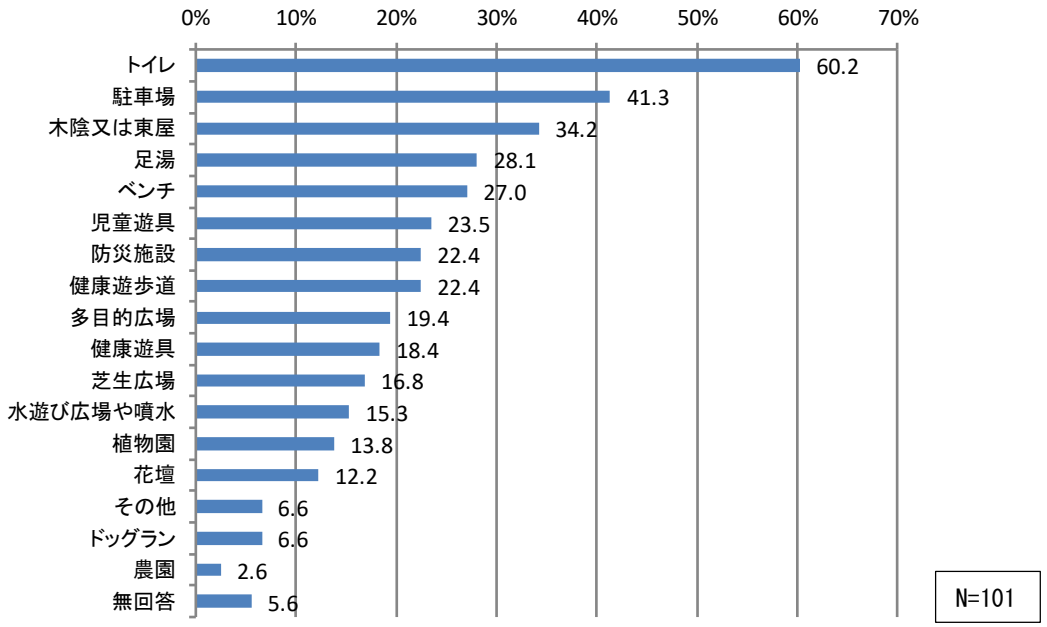
● 天城湯ヶ島地区で公園を作る場合のご意見

どのような公園になると良いと思いますか（単一回答）



多世代、家族が使いやすい公園を望む中学生が２／３程度

どのような施設がある公園が良いですか（５つ回答）



大人と異なり、児童遊具、水遊び場や花壇の回答が多くなっている。